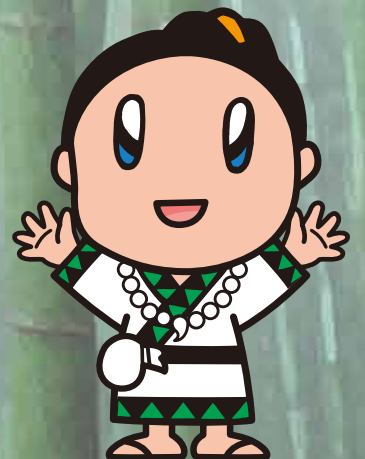




武四郎まつり 20年の歩み

—— 魅力あふれるふるさとづくりをめざして ——



武四郎まつりのチラシ



第4回・1999年



第5回・2000年



第6回・2001年



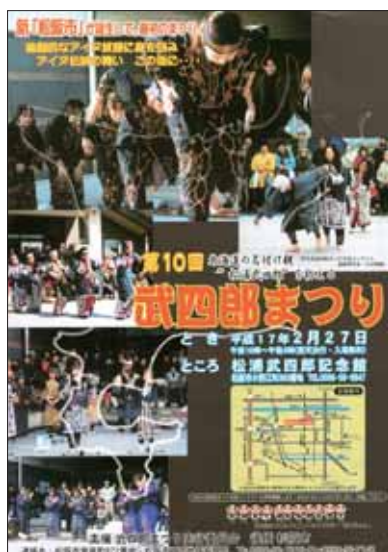
第7回・2002年



第8回・2003年



第9回・2004年



第10回・2005年



第11回・2006年



第12回・2007年



第13回・2008年



第14回・2009年



第15回・2010年



第16回・2011年



第17回・2012年



第18回・2013年



第19回・2014年



第20回・2015年

写真コンテスト 最優秀賞



2000年



2001年



2002年



2005年



2003年



2006年



2004年

第20回武四郎まつり

まつり前日のアイヌ文化体験交流会の様子



アイヌ民族楽器を体験



アイヌ語をかるたで学ぶ



開会式の様子
鈴木・三重県知事のあいさつ



地元中学生による演奏



会場入り口でたけちゃんがお出迎え



小学生による武四郎の学習発表



アイヌ古式舞踊の披露



来場者と交わって踊る



記念館内でもアイヌ文化を展示



武四郎胸像の贈呈式



北海道や地元の物産品も販売



会場内のゴミは分別を徹底



松阪の郷土芸能しょんがい踊り



武四郎の生家も部分公開



伊勢大神楽保存会竹上社中による獅子舞

は じ め に

武四郎まつりは、郷土の偉人としての北海道の名付け親・松浦武四郎に深い敬愛を持つ地元の方々の多大なご理解と大勢の方のご協力により、松浦武四郎記念館が開館した翌年の平成8年2月を第1回として、20年にわたって記念館を拠点に開催されてきました。この時期にまつりを開催するのは、武四郎の生没月が2月であるからだそうですが、毎年冬の寒い中たくさんの方が、武四郎という人物に興味を持ち参加していただいています。これはこの地域を代表する冬のまつりとして定着してきたことと、武四郎への関心の高さを表しているのではないのでしょうか。

この武四郎まつりには毎回「アイヌ古式舞踊」をご披露いただいておりますが、武四郎も愛した自然と共に生きるアイヌの人々の伝統文化を知っていただくとともに、北海道との交流を通じて改めて郷土のよさを再発見し、特色ある個性豊かなまちづくりと心豊かな人づくり、そしてさらなる地域振興を目指し開催しているものです。

このたび、まつりの第1回から今春の第20回までをとりまとめた『武四郎まつり 20年の歩み—魅力あふれるふるさとづくりをめざして—』が武四郎まつり実行委員会によって刊行されることになりました。この冊子によって20年を節目に一度立ち止まって、これまでのまつりの事業を検証することは非常に重要であり、今後のまつりの展開やあり方を見直すきっかけになればと思います。

現在、松浦武四郎誕生地の保存整備について武四郎の生誕200年となる平成30年をめぐりに準備が進められておりますが、今後とも武四郎まつりが松浦武四郎記念館、地域住民の方々と団体、行政の三者が一体となって、次の新たなステップに進展することを期待しています。

これまで武四郎まつりの開催にあたって、国指定重要無形民俗文化財のアイヌ古式舞踊公演の招聘等多大なご支援を賜ってきました公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構をはじめ、多くの団体、方々にご協力いただきました。この機会に御礼申し上げますとともに今後もより一層のご支援・ご協力をお願いする次第です。

平成27年9月

松阪市三雲地域振興局
局長 鈴木 修

目 次

はじめに	鈴木 修	
本書の作成にあたって	宇野文男	3
I 松浦武四郎記念館 松浦武四郎とは／松浦武四郎記念館設立の経緯／ 開館以後の博物館活動	山本 命	4
II 武四郎まつりの20年 はじめに／第1回武四郎まつり／その後の武四郎まつり／ 武四郎まつりの定着化／市町村合併／地域に根付いた武四郎まつりへ 第1回～第20回武四郎まつりプログラム	宇野文男	8 16
III 第20回武四郎まつり 1. 概要 2. まつりを振り返って 3. 実行委員長として	宇野文男 飯田 秀	36 38 40
IV 今後に向けて 「武四郎守り隊」と「武四郎まつり」、そして「武四郎カリキュラム」 武四郎まつりと三雲中学校 第20回武四郎まつりに参加して 「武四郎まつり」と共に歩む松浦武四郎記念館	川中英世 川口朋史 齋藤玲子 中野 恭	41 41 42 44
V 関連資料 表1：武四郎まつり歴代委員長・副委員長 表2：松浦武四郎記念館アイヌ文化体験教室 表3：武四郎まつりにおける古式舞踊等公演 表4：第20回武四郎まつり実行委員会の動き 表5：第20回武四郎まつり運営スタッフ・出演者一覧 図1：第20回武四郎まつり当日の配置図		45 46 47 48 50 51

この冊子は平成8年2月を皮切りに平成27年の第20回まで開催されてきた「武四郎まつり」に関する記録をとりまとめた報告書である。これまで武四郎まつりに間接的には関わってきたが、第20回の実行委員会にはじめて直接加わってみて、過去の経緯や具体的な手法などを知る手がかりは少なかった。毎回のまつりの公式報告書はなく、「第20回武四郎まつり」を一つの区切りとして、過去の分をとりまとめた報告書の必要性を感じた。活動記録を残すことにより、より多くの人々に郷土の生んだ松浦武四郎の偉大さ、そして松浦武四郎記念館について知名度アップにも寄与し、今後の活動に向けて考察する資料となることをもくろんだ。それとともに担当者だけの共通理解ではなく地域を巻き込んだ事業のため、幅広く情報の共有を図る必要性も感じていたからである。

平成27年1月の武四郎まつり第7回実行委員会に報告書の製作を提案、了承された。実際にその作業にあたって該当資料の収集を進めていくと、公文書の保存期間、松阪市との合併、担当者の入れ替わり、ワープロ時代の入力情報やソフトの変換など、20年間の歳月の記録を再現するには思いのほか困難をきたし、データ収集にずいぶん手間取ることになった。書類やデータの不備の確認のため、事務局担当の三雲地域振興局地域振興課の河井和義職員を窓口に、武四郎まつりに過去に関わった当時の元職員も含む多くの関係者と面談のうえ、調整作業を行なわざるを得なかった。それと同時に並行で松浦武四郎記念館の山本命主任学芸員、河井さんとの3人で、膨大な写真のなかから掲載写真の選定や編集作業のために何度も会合を重ねてきた。

本編の基本的な構成は、第Ⅰ章で松浦武四郎と松浦武四郎記念館の概説、第Ⅱ章では武四郎まつりに関連する資料とチラシなどのプログラムによって、まつりが誕生したいきさつから20回まで振りかえった。各回のプログラムでは名称や表現等の統一をはかるとともに、関連する情報を追加した。第Ⅲ章では今春の第20回の活動をさらに詳しく紹介し、その反省点と課題などを列記した。第Ⅳ章ではこの事業を今後どう展開するか考慮する上で、関係者の方々に原稿執筆を依頼した。さらにまつり当日の『イベント進行表』の一部などを関連資料として第Ⅴ章にとりまとめた。

この冊子によって、登録博物館施設である記念館を地域住民が支える活動の一事例として参考になれば幸いである。末筆ながらこれまで武四郎まつりにご支援・ご協力いただいていた多くの方々、報告書のデータ収集、編集等の協力者に改めて感謝申しあげる。

(参考資料)

『ふるさと三雲 今と昔』平成8年3月31日、三雲町史編集委員会／『松浦武四郎生誕190年等記念事業報告書 松浦武四郎～時をこえてつなげる心～』平成21年3月、松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会／『開館20年記念誌 松浦武四郎記念館20年の歩み』平成26年7月4日、松浦武四郎記念館／『松浦武四郎記念館 図録』平成26年9月30日、松浦武四郎記念館／『広報みくも』平成7年～16年／『広報まつさか』平成17年～27年／アイヌ文化振興・研究推進機構のホームページ／新聞各紙
(編集協力)

松浦武四郎記念館／松阪市三雲地域振興局地域振興課／第20・21回武四郎まつり実行委員会
高瀬英雄(元松浦武四郎記念館館長)／木下利江(元松浦武四郎記念館学芸員)／北川雅樹・松田忠正
(元三雲町役場職員)／伊豆川政夫(元三雲小野江郵便局局長)／齋藤玲子(国立民族学博物館助教)／
川中英世(松阪市立小野江小学校校長)／川口朋史(松阪市立三雲中学校校長)／米本一美(郷土史家)

I 松浦武四郎記念館

松浦武四郎記念館 主任学芸員 山本 命

松浦武四郎(1818～1888)とは

松浦武四郎は、文化15(1818)年に伊勢国一志郡須川村(現在の三重県松阪市小野江町)で、和歌山藩の地士を務める松浦家の第四子として生まれました。その誕生地(市指定史跡)は、伊勢神宮へと続く伊勢街道に沿っており、江戸時代に全国各地からやって来るおかげ参りの旅人で賑わいました。

武四郎は、7歳で近くの寺で読み書きを習うと、各地の名所を図入りで紹介した「名所図会」を愛読します。13歳の頃には、「文政のおかげ参り」が起こり、一年間で約500万人が伊勢神宮を目指して全国各地から押し寄せたとされます。家の前を行き交う旅人に大きな刺激を受けた武四郎は、16歳で家を飛び出して江戸へ旅し、17歳からは日本全国をめぐり歩きました。

19歳で四国八十八ヶ所の霊場を巡り、20歳で九州へ渡ると、長崎で出家して「文桂」という名の僧侶となります。平戸では実際に寺院に住み込んで生活を送りましたが、やがて壱岐・対馬まで渡ります。武四郎の眼は、その先にある朝鮮、さらには中国・インドへと向けられましたが、鎖国のため朝鮮へ渡ることはできず、長崎でロシアが蝦夷地(今の北海道)を狙っていることを知ると、まだ詳しい様子がわかっていなかった蝦夷地の探査を決意します。そして、28歳から41歳にかけて6度も蝦夷地・千島列島・樺太の探査を行い、先住の民であるアイヌ民族と出会うと、アイヌの人びとの協力を得て、道なき道を歩いたのです。6回の探査の記録は151冊にまとめられるとともに、9,800にもものぼるアイヌ語地名を収めた大型の蝦夷地地図の出版も行いました。また、アイヌ文化のミニ百科事典ともいえる「蝦夷漫画」や、アイヌの人びとの姿をありのままに記録した「近世蝦夷人物誌」を著すなどして、アイヌ民族への正しい理解を求め、アイヌの人びとの生命、文化を守ることを幕府に訴えます。蝦夷地を領地とする松前藩から調査の妨害や命を狙われることになりましたが、武四郎は決してその姿勢を崩すことなく、信念を貫きました。幕末には吉田松陰など数多くの志士たちとも交流し、蝦夷地にもっとも詳しい人物との評価を得ました。やがて、時代は明治維新を迎えると、大久保利通の推挙により明治政府へと登用され、開拓使では長官、次官に次ぐ判官に抜擢されます。

明治2(1869)年、蝦夷地にかわる名称の撰定に携わった武四郎は、「日本の北にあり、アイヌの人びとが古くから暮らす広い大地」という思いを込めて「北加伊道」を提案し、現在の「北海道」の名称が生まれました。武四郎が目指したのはアイヌの人びとが安心して暮らすことができる北海道でしたが、アイヌ民族への政策をめぐる反発し、政府を辞職します。野に下った武四郎は、「馬角斎」(ばかくさい)と号し、各地を旅して古物を収集したほか、天神信仰にも篤く、菅原道真にゆかりの深い25ヶ所の天満宮へ賛同者を募って神鏡を奉納し、石標を建てました。

また、68歳から70歳にかけて、三重と奈良の県境にそびえる大台ヶ原へ登り、70歳で富士山に登るなど、老いてな



松浦武四郎肖像写真 明治17年撮影

お旅の心は衰えませんでした。

70歳を前にして足腰の衰えを感じていた武四郎は、これまでの旅を通して出会った全国各地の人びとに頼んで、その土地その土地の古社寺などで使われた古材を送ってもらいます。その古材を用いて畳一畳の書斎「一畳敷」(国際基督教大学構内にある泰山荘に現存)を自宅に建て、これまでの旅の人生を懐かしげに振り返りましたが、明治21(1888)年に71歳でこの世を去りました。

松浦武四郎記念館設立の経緯

現在、松浦武四郎記念館では、重要文化財1,503点(歴史資料)、三重県有形文化財223点(歴史資料)に指定された松浦武四郎関係資料を収蔵しています。これらの資料群の核となるのは、武四郎の実家にあたる三重県松阪市の松浦家と、武四郎の直系となる東京都の松浦家に、それぞれ伝えられてきた資料をご寄贈いただいたものです。

ここでは武四郎の没後から平成6年の記念館開館までの流れを紹介します。

明治21(1888)年	2月10日、松浦武四郎没(71歳)。資料は「東京松浦家」(武四郎の直系)と「三重松浦家」(武四郎の実家)でそれぞれ大切に保管される。
大正12(1923)年	関東大震災で東京松浦家が全焼し、甚大な被害を蒙ったが、武四郎の自筆資料は紀州徳川家の南葵文庫(東京麻布)に貸し出されていたため、焼失を免れた。
昭和20(1945)年	東京大空襲で東京松浦家は全焼し、家財道具も全て焼けたが、関東大震災での経験を活かして、世界に一つしかない資料を何としても守るため、空襲の直前に栃木県佐野市へと資料を疎開させ、焼失を免れた。
昭和29(1954)年	終戦後、東京松浦家では武四郎自筆の原稿を中心とした資料を、文部省史料館(現在の国文学研究資料館)へ寄託(松浦家文書)し、その他の絵画・工芸類の資料については自宅で保管する。
平成4(1992)年	2月21日、三重松浦家に伝来する武四郎の資料305点が、三重県有形文化財(歴史資料)に指定される。 この年、三雲町(平成17年に合併し現在は松阪市)では全国初となる武四郎資料を展示し、武四郎の業績や人物像を多角的に紹介する拠点づくりに取り組むための設計費を予算に計上する。
平成5(1993)年	7月10日、三重松浦家で保管されてきた資料305点が、三雲町へ寄贈される。 寄贈記念式典は三雲町商工会館で行われ、三重松浦家の当主松浦清氏から寄贈資料の目録が黒宮哲之町長へと贈られた。記念式典で松浦清氏は、「和紙は虫食いや火災が怖い。せっかく樺太までいった記録が、世に知られないままなくなってしまうたら、何にもならない。きちんと保存してもらったうえ、専門の先生に解説してもらい、武四郎の価値を広く知ってほしい。」と話し、黒宮町長も「松浦家の家宝として受け継がれてきた貴重なものばかりだ。記念館の建設で、三雲の偉人を若い人たちにも伝えていきたい。」と、資料の今後について語った。
平成6(1994)年	7月3日に松浦武四郎記念館がオープンし、竣工記念式典が小野江小学校体育館で行われた。式典には、田川亮三・三重県知事をはじめ、横路孝弘・北海道知事、北海道ウタリ協会の野村義一理事長が出席された。横路北海道知事は、「北海道の全

平成6(1994)年	容を明らかにし、アイヌ文化に深い理解を示した武四郎の見識の高さに敬意を表したい」、「武四郎は、三重県より北海道で有名。4回目の探検で訪れた札幌を蝦夷地の都として進言するなど、北海道発展のために尽くした業績は計り知れない。記念館の完成は、北海道への理解を深めることにもなり喜ばしい」と語り、北海道ウタリ協会の野村理事長は、アイヌ民族の伝統的な衣装で出席し、「この衣装で津軽海峡を越えたのは初めて」、「松浦武四郎はアイヌ民族がたった一人尊敬する日本人」と武四郎をたたえた。 開館初日は館内を無料開放し、約800人が見学をするなど、大勢の人で賑わう。
------------	--

開館以後の博物館活動

松浦武四郎記念館では、武四郎の貴重な資料を後世に残し、紹介する目的で平成6(1994)年7月の開館から活動を行っています。館蔵資料は、武四郎が著した日誌、地図、書簡、絵画などが中心ですが、武四郎が蝦夷地の探検で持ち帰ったアイヌ民族資料も収蔵しています。

現在1,503点の資料が松浦武四郎関係資料として、国の重要文化財に指定されており、展示室では二ヶ月ごとに展示資料を入れ替えているほか、充実した映像コーナーや武四郎冒険すごろくクイズなどもあり、さまざまな武四郎の姿を紹介しています。



松浦武四郎記念館

開館時間：9時30分～16時30分

入館料：一般310円

6歳以上18歳以下200円

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日を休館)、祝日の翌日、12月29日～1月3日

〒515-2109

三重県松阪市小野江町383

電話 0598-56-6847

FAX 0598-56-7328

matsutake.k@city.matsusaka.mie.jp



復元された一畳敷書斎(INAX 寄贈)



展示室

また、松浦武四郎記念館から徒歩約7分のところに、松阪市の史跡に指定された「松浦武四郎誕生地」があり、武四郎のふるさとのわが家が、かつての姿で残されています。

この家の前を通る道は、江戸と京を結ぶ東海道が四日市の日永で分岐し、伊勢神宮へとつながる「伊勢街道」であり、武四郎の誕生地がある小野江町から南に伊勢街道を進み、格子戸が美しい市場庄の街並みを含む松阪市中心部にかけての区間は、社団法人日本ウォーキング協会が選定した「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選ばれています。



武四郎が行った六度に及ぶ蝦夷地調査は、アイヌの人びとの協力がなくては、なし遂げられるものではありませんでした。武四郎は、寝食を共にした調査で、アイヌの人びとと深く交流し、アイヌ文化を愛した、異文化理解・多文化共生の先覚者でもありました。

三雲町(今の松阪市)では、武四郎が文化15(1818)年2月6日に生まれ、明治21(1888)年2月10日に亡くなったことにちなんで、武四郎の功績をたたえとともに、武四郎が深く交流したアイヌの人びとの伝統文化に触れていただくことで、アイヌ文化への理解を深めてもらおうと、平成8年2月以降、平成10年を除いて毎年2月の最終日曜日に「武四郎まつり」が開催されてきました。

武四郎まつりでは、記念館を取り巻く地域の方々やさまざまな団体、小中学校の児童や生徒等、多くのみなさんのご協力・ご支援で活動が展開されています。また北海道各地で活動されているアイヌ民族文化保存会のみなさんをお招きし、国重要無形民俗文化財に指定されたアイヌ古式舞踊を披露していただいております。150年以上の時を越えて、武四郎が北海道と松阪を結ぶ懸け橋となって、今も交流を深めています。

以下、ここでは、記念館が開館して以降の主な活動を紹介します。

平成12(2000)年	東京松浦家で保管されてきた資料が、三雲町へ寄託される。
平成16(2004)年	東京松浦家は、三雲町へ「寄託」していた資料を「寄贈」とする。
平成17(2005)年	三雲町が市町合併により「松阪市」となる。 東京松浦家は、「松浦家文書」の国文学研究資料館への寄託を解き、全てを松阪市へ寄贈する。
平成18(2006)年	三重県は539点の資料を三重県指定有形文化財に追加指定し、松浦武四郎関係資料は合わせて844点となる。
平成20(2008)年	2月に、松浦武四郎が生誕190年、没後120年、6回目の北海道調査から150年という記念すべき年を迎えたことから、平成21(2009)年2月までの間に1年をかけて「松浦武四郎生誕190年等記念事業」を行う。また、この年には文化審議会の答申を受け、1,503点の資料が、重要文化財(歴史資料)に指定される。 これにより、三重県指定有形文化財は844点から223点に変更となる。
平成26(2014)年	松浦武四郎記念館が開館から20年を迎え、記念式典や記念特別展などを開催。
平成27(2015)年	2月に武四郎まつりが第20回を迎えた。
平成30(2018)年	松浦武四郎が生誕200年を迎える。

Ⅱ 武四郎まつりの20年

宇野 文男

はじめに

松浦武四郎記念館は三重県一志郡三雲町が建設し、平成6(1994)年7月3日に開館した。その一方、同年7月22日～11月6日に伊勢市朝熊山麓で「ジャパンエキスポ世界祝祭博(まつり博・三重'94)」が開催された。その際の開催余剰金を「まつり博記念地域活性化基金」として、平成7年秋頃地域イベントに補助金を支出する制度「平成7年度市町村イベント支援事業」の公募があった。

その当時の町及び記念館がかかえていた課題は以下の4点が記されている。

1. 東京の松浦一雄氏所有の国文学研究史料館に寄託されていた武四郎関係資料を、将来松浦武四郎記念館に寄託いただく前段として、松浦孫太氏解説資料原稿を冊子として刊行し、世にアピールしていくことによって三雲町が本腰をいれている状況を作り出す。
2. 記念館の展示の定期的な入れ替え、他館との資料の借用、開館1周年や生誕・没後等特定の時期に特別展開催等の展示計画の推進。
3. 記念館が三雲町の町づくりに果たす役割は非常に重要なものであるが、町内の理解が十分ではない。外にアピールしていくことによって徐々に解決をはかることにもなり、またマスコミ等がよりとりあげてくれるイベントの開催が必要である。
4. 記念館の運営予算に限りがあり、圧迫された予算状況で議会での審議も困難を極めていた。

そのため孫太資料出版、アイヌ資料展示、講演会、イベント、図録作成からなる「武四郎まつり」の開催を企画し、上記の制度を利用して記念館の広報とともに、松浦武四郎に関しての理解を深める事業展開の計画を県に11月1日申請し、幸いにも400万円の補助金の交付をうけることとなった。それとともに町から市町村一般財源400万円が予算に計上された。武四郎まつりは人々の交流のなかで武四郎の顕彰活動を一層すすめるとともに地域の人々の文化意識の高揚をはかり、心豊かな町づくりに貢献したいとの目的も兼ねていた。そのことにより、武四郎について理解を深める、人権尊重思想の啓発、ボランティア活動の推進、住民の連帯意識の向上などが期待される効果としてあげられていた。

第1回武四郎まつり

武四郎まつりの実施にあたっては10月から準備に取りかかり、ようやく12月に実行委員会が立ち上げられた。

委員長 太田 勇(三雲文化協会会長)

副委員長 金子慎一(小野江地区区長会長)／田中 寛(三雲村づくり塾会長)

委員 前川金治郎(三雲町議会議長)／中森正直(小野江地区公民館長)／前田豊太郎(三雲町教育委員長)／森 靖久(三雲町社会教育委員長)／瀬古一彰(三雲町商工会)／伊豆川政夫(郵便局代表)／伊藤 穰(武四郎守り隊)／中村 淳(体育協会代表)／中村良子(婦人会長)／田中 宏(老人会長)／戸島 久(一志東部農協小野江支店)

事務局 奥川彰博(三雲町助役)／寺田和雄(教育委員会教育長)／世古 勝(総務課長)／奥田 徹(教育委員会教育課長)／松野 勇(企画調整課長)／北川雅樹(同課長補佐)／松田忠正(教育委員会社会教育課長補佐)／鈴木恒雄(松浦武四郎記念館館長)

上記のように松浦武四郎記念館運営委員、記念館オープンに関わった団体、社会教育関係団体、一志東部農協小野江支店、それに三雲町役場の職員からなる事務局で構成された。

まつりの開催日は武四郎の生没月である2月とし、最終日曜日の平成8年2月25日に設定された。その当日は講演会と物産展、催し等のイベントを中心に計画されたが、それに先だって記念館図録の製作に着手し2月20日に刊行(B5版43頁)した。また特別展の開催が企画された。当時筆者は、国立民族学博物館情報管理施設の専門官として資料管理と展示企画を担当しており、平成5(1993)年、国際先住民年にあたって同館で6月に催された企画展「アイヌモシリ」に、松浦家で所蔵(現在は記念館蔵)していた武四郎収集のアイヌ民族資料11点の出品交渉に立ち会った。また松浦武四郎記念館の設立にも関与した立場で、国立民族学博物館のアイヌ研究者・大塚和義教授の協力のもと、特別展の開催に向けてその準備に関わった。2月6日から4月28日の会期で国立民族学博物館所蔵のアイヌ民族資料120点を展示した特別展示「武四郎の見たアイヌ民具」を立ち上げ、まつり当日の記念館への入館は無料とし、3月には同教授の関連講演も行った。

第1回武四郎まつりは町内多くの団体・個人との協力があったが、多くの小・中学生の参加も考え書道作品を募集することとし、町内4小学校の3年以上の児童と三雲中学校の生徒を対象に事前に課題を与え毛筆による作品を募集した。409名の応募があり、まつり当日から1カ月間記念館に隣接する小野江小学校体育館に「書道展」として展示した。なお武四郎まつりの前日に「前夜祭」として全国ツアー中のアイヌ詞曲舞踏団「モシリ」(昭和56年結成)による踊りと音楽披露された。

その後の武四郎まつり

市町村イベント支援事業は平成8年度までの2年間限定の継続事業であったが、それ以後も町の事業の一つとして長期的に開催していく方向で、同年度の計画が年度当初から進められた。「武四郎」が「旅」を通じて育てた様々な「交流」をコンセプトに、記念館を中心に実施する静と記念館へ至るウォークラリーの動、その両面から展開するイベントを企画。「文人武四郎」では仙台藩白老元陣屋資料館、アイヌ民族博物館などの所蔵資料による特別展示や講演会、「旅」では近鉄松ヶ崎駅から伊勢街道沿いにまつり会場までのウォークラリー、旅の草履づくり、小中学生による書道展に加え歴史街道フォトコンテストが企画された。さらに「交流」では北海道と地元の郷土芸能、食と物産の交流など前回にはなかった取り組みが加わった。そのような計画のもとに第2回は平成9年2月に開催され、白老のアイヌ民族博物館の協力でアイヌの方々9名を招聘し、国の指定重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊の披露もプログラムに盛り込まれた。

◆9年度

第3回のまつりは、町内の福祉まつりやどんどんまつりなどを一緒にして、平成7年7月に完成した保健福祉センター「ハートフルみくも」に会場を移して10年3月21日に開催された。三雲町の人権宣言5周年も兼ね、まつりのテーマは「愛」。アイヌの人たちと親しく交わり対等な立場で接した武四郎にスポットをあてた。会場の出展テントの一つの三雲新村づくり塾では第1回・第2回に石狩鍋を提供していたが、今回からは「武四郎鍋」と改名して販売し人気を集めた。

◆10年度

平成10年度ではまつりの実施財源が確保される見通しがつき、再び会場を元の記念館に戻されることになった。10年8月に、前年6月に設立された財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構(理事長：佐々木高明)に「アイヌ芸能鑑賞会開催助成」の申請を行い、その提出に必要な「武四郎まつり実行委員会規約」が再整備(9月7日)された。機構から20万円の助成金交付を受け、その結果、帯広

市を拠点に活動中の帯広カムイトウウポポ保存会から9名をまつりに招聘することとなった。当初3月7日で計画されていたが町の行事と重複のため、第2回までと同じく生没月の2月の最終日曜日開催に変更し、他の行事等との混乱を避けるため今後は開催日を定例化することにした。

武四郎まつりのマスコットキャラクターを12月1日から翌11年1月31日募集、県内外から196点の応募があり、鶴小学校6年の前田美穂さんの作品を最優秀に選び、「たけちゃん」と命名され、2月の第4回のまつり当日にすべての応募作品とともに紹介された。

◆11年度

平成11年の年末にはまつりのPRに一役買おうと三雲新村づくり塾が竹を利用した啓発用アーチを手づくりし、イルミネーションを施した。第5回となる12年2月のまつり当日は、お茶会や氷刻の実演、会場で撮影したスナップ写真のコンテストの開催など参加型のイベント内容を盛り込むことにより、参加者と一帯となった新しいまつりの形態を見出すきっかけともなった。前年に披露された武四郎まつりのマスコットキャラクター「たけちゃん」の着ぐるみが製作され、今回のまつりでお披露目された。



武四郎肖像パネル前のたけちゃん

武四郎まつりの定着化

◆12年度

これまで町内の区長会、婦人会、商工会、ボランティア団体などで構成する武四郎まつり実行委員会が各イベントを企画し開催してきたが、平成12年度の実行委員会では、今回から初めてイベント企画案とボランティアスタッフを町内外から公募して、できるだけ多くの人に企画段階から携わってもらい、より充実した内容を目指した。

アイヌ文化振興・研究推進機構の「アイヌ文化体験交流会開催助成事業」(14年度から国内文化交流助成)の助成限度額が150万円に拡大されたことにともない、13年1月21日と2月4日のアイヌ文化体験教室での舞踊体験の講師派遣、2月25日の第6回武四郎まつりでのアイヌの方々の舞踊団の招聘計画を5月に申請。翌月には承認されアイヌ民族博物館伝統舞踊保存会から12名を迎えることになった。以後毎年のもつりに同様の手続きが繰り返されている。このことによって、北海道との交流はますます深められていくことになった。

なおこの助成で前年度(11年度)にもアイヌ文様の刺しゅう体験交流会として、延べ4日間の講師派遣の経費を助成してもらっている。11年度から始まった記念館のこの「アイヌ文化体験教室」は13年度からは推進機構の「アイヌ文化活動アドバイザー派遣」制度を利用して、まつり当日に習得した踊りの披露や成果品の展示など、まつりにも関連させその後も体験教室は記念館の主要事業の一つとして継続されている(関連資料：表2参照)。

◆13年度

平成14年2月の第7回では前年3月に地元三雲中学校を卒業した高校生の高橋進太・杉谷和久・山下祐輝さんが中学時代に作詞・作曲した曲「武四郎に捧げる曲」を会場で披露した。これには次のようなエピソードがあり、「夕刊三重」の2月22日付に掲載記事からその一部を抜粋する。2年生のとき武四郎の分骨碑のある大台ヶ原登山をきっかけに、当時担任の稲生淳子教諭が文化祭で武四郎についての展示発表を提案。3人は武四郎にちなんだ曲の創作活動に取り組んだが、遅々として

進まず担任に励まされながら1年半かけて完成させた。残念ながら卒業を間近に控えた昨年のもつりには間に合わず、校内の3年生を送る会で発表された。ところが8月稲生教諭が病気で急逝。2年の時に隣のクラス担任だった齋藤和子教諭が「稲生先生の遺志を継ぎ、この曲をまつりで発表させたい」と、公募した実行委員に応募し、会議でこの企画を提案、実現することになった。2人はまつりに向け編曲し練習を再開。まつり当日は稲生教諭の遺影とステージで演奏が繰り広げられた。

なおこの回のもつりでは平取アイヌ文化保存会・15名の古式舞踊が披露され、多くの来場者が会場に詰めかけ約5,000人を記録した。

◆14年度

第8回(15年2月)帯広カムイトウウポポ保存会のメンバー・10名が、古式舞踊を披露した。この回のもつりの特色は、当日の運営に地元の小・中・高校生がボランティアとして数多く参加し、まつりを盛り上げた。

◆15年度

第9回(16年2月)では初めて町商工会青年部が人工降雪機を使って高さ1メートル余の雪の滑り台を作った。小野江小学校6年生が武四郎についての解説書150部を作成し会場で配られた。古式舞踊は阿寒アイヌ民族文化保存会の12名が関わった。

市町村合併

◆16年度

翌年の平成17(2005)年1月に三雲町は松阪市、嬉野町、飯南町、飯高町と合併し、新「松阪市」となることになっていた。第10回の武四郎まつりはその合併直後の2月27日に開催され、松阪市として最初のもつりとして開催されることになった。そのため年度途中での組織の再編や広報等新体制での開催にむけて、実行委員会としても多少の混乱は免れることはできなかった。合併をアピールするために旧松阪市と旧3町のそれぞれの地域に伝わる郷土芸能を披露することとし、またアイヌ古式舞踊は白老民族芸能保存会・12名による踊りが繰り広げられた。

◆17年度

平成18年2月の第11回は、雨天のため初めて予備会場の小野江小学校体育館での開催となった。古式舞踊の弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会・10名のメンバーのなかで、以下のように武四郎を屈斜路湖で案内したアイヌの男性の子孫と武四郎の子孫との対面が実現した。司会者のスピーチでは次のように紹介された。

「今回アイヌ古式舞踊をご披露いただきますのは、屈斜路湖という湖があることで知られる北海道弟子屈町からお越しいただきました「屈斜路古丹アイヌ文化保存会」のみなさまで。なんと、みなさまの中に今から147年前、北海道を探検していた松浦武四郎さんを案内されましたアイヌ民族の「イソリツカラ」さんのご子孫の方がいらっしゃいます。147年前の北海



道で武四郎さんとイソリツカラさんにどのような出会いがあったのか、気になるところですが、はじめに、今回ご出席いただいた皆様をご紹介します。屈斜路古丹アイヌ文化保存会からは、「イソリツカラ」さんのご子孫である、中田美津枝さん、伊藤ヨシ江さん、服部裕子さん、武田千鶴さん、岩谷貴久さんです。

松浦家からは、武四郎直系のご子孫で東京からお越しいただきました松浦一雄さん、息子さんの松浦史明さん、宣子さんご夫妻、一雄さんの弟さんで名古屋からお越しいただいた松浦信彦さん。武四郎さんの実家にあたります小野江町の松浦家から松浦ともさんと娘さんの高瀬明子さん、そして、下村猛松阪市長には今回の再会の立会人として、再会の場面を見届けていただきたいと思います。」ということで、北海道と松阪の交流がはるかな時空を超えて実現したのである。

◆18年度

平成12年2月開催の第5回まつりからはじまった「武四郎まつり写真コンテスト」は第11回のまつりを持って終了し、今年度は実施しないことになった。撮影をめぐる来場者とごく一部のカメラマンとのトラブル、応募者の層が広がらなかったこと、被写体が固定化されてきたことなどがその理由に挙げられ一旦休止とあいなった。これまでの応募総数と最優秀賞(中日新聞社賞)を受賞された方々は以下の通りである(カラー写真頁参照)。

第1回：応募総数111点、12年3月29日審査、「ほくも仲間入り」齋藤千鶴子(三雲町)

第2回：応募総数225点、13年3月28日審査、「会えてよかった」朝倉隆博(三雲町)

第3回：応募総数143点、14年3月20日審査、「小さな踊り手」林 豊(松阪市射和町)

第4回：応募総数126点、15年3月19日審査、「アイヌの勇者」山脇陸祐(白山町)

第5回：応募総数112点、16年3月19日審査、「古式舞踊」出口正弘(松阪市笹川町)

第6回：応募総数213点、17年3月17日審査、「ウポポ(座り唄)」利見幸夫(松阪市豊原町)

第7回：応募総数 73点、18年3月15日審査、「色男の舞 B」利見幸夫(松阪市豊原町)

第12回(19年2月)は武四郎が6度の蝦夷地調査で3度訪れた北海道白糠町から白糠アイヌ文化保存会・11名を招聘した。同一行は浜に打ち上がった鯨を解体する様子を踊りにしたフンペリムセ(鯨の歌舞)では、小野江小学校の6年生7人が踊りに加わった。

◆19年度

翌年の平成20(2008)年は松浦武四郎の生誕190周年に当たり、数々の催しが計画されていた。その一つの松浦武四郎生誕190周年記念事業オープニングイベントを松阪市制施行3周年記念式典とともに、松阪市民文化会館で2月23日(土)に1,200人の来場者を迎え開催。「武四郎を知る!」、「武四郎を語る!」、「武四郎を偲ぶ!」をテーマに市町村合併により武四郎の魅力を分かりやすく多くの方々に紹介された。特に3つめのテーマでは、武四郎の最後(6回目)の蝦夷地調査から150年を記念して、鶴川アイヌ無形文化伝承保存会・16名の方々による伝統的な踊りを披露していただいた。翌日に開催された第13回武四郎まつりにも出演した。

◆20年度

平成20年5月11日に武四郎記念館友の会の設立総会があり、17年7月から開始された武四郎講座の受講者を中心に、記念館の活動を支援する組織が誕生した。以後、その会長等の代表者が武四郎まつり実行委員会の委員として加わることになった。また7月には、文化財審議会(3月21日開催)で答申のあった松浦武四郎関係資料の重要文化財指定について、文部科学省告示第115号により1,503点が重要文化財(歴史資料)の指定を受け、資料の保存管理や研究活動の面からも記念館はより一層重大な責務を負うことになった。

第14回のまつりは21年2月22日に予定されており、アイヌ古式舞踊に出演予定の静内民族文化保存会のメンバー12名を新ひだか町から招聘することになっていた。ところが直前になってその計画に重大なトラブルが生じた。20日からの悪天候により新千歳空港発着の航空機が欠航となり、搭乗予定の21日午前も航空機の出発が見込めず、招聘を断念せざる事態となった。急遽関係者で協議の上、首都圏で活動している若者の団体AINU REBELS(アイヌレブルズ)と交渉、快諾を得て8名の方々に出演していただき、当初の計画に穴を開けずにまつりが開催された。オープニングセレモニーでは、前月の松阪市長選挙において当選時点で全国最年少市長となった山中光茂氏があいさつした。なおこの回から普段は見学ができない「松浦武四郎誕生地」である生家の一部を開放・特別公開した。記念館から約650メートルはなれた伊勢街道に面する生家の前の休憩所では、温かいお茶のおもてなしが行われた。

◆21年度

第15回(平成22年2月)のまつりでは、松浦武四郎生誕地とともに武四郎が幼少の頃に学問を学んだ生誕地から近い「真覚寺」も特別に公開された。武四郎まつりが第15回目を迎えたことを記念し、武四郎の資料を寄贈いただいた松浦家直系の東京の松浦一雄氏、実家にあたる三雲の松浦ともさん、それに記念館の建設を計画、その実現に尽力された当時の三雲町長黒宮哲之氏に実行委員長から感謝状が贈呈された。

ところがまつり前日の2月27日15時34分頃、南米チリ中部沿岸でマグニチュード8.6の地震が発生しており、この地震に起因する津波が日本付近に到達する可能性が高まったことから、28日津波警報が発令され、午後の部が中止された。このため、札幌ウポポ保存会・13名による古式舞踊の第2部や、平成11年生まれ、武四郎まつりマスコットキャラクター「たけちゃん」と松阪市市制5周年を迎えるのを機に誕生した市のキャラクター「ちゃちゃも」の対面式は実現しなかった。

地域に根付いた武四郎まつりへ

◆22年度

平成22年7月、博物館法第10条で規定された「博物館」(登録博物館)として三重県が松浦武四郎記念館を登録した。それにより記念館は名実ともに地域の博物館としての果たすべき役割の重要性がまし、新たな第一歩を歩み出した。

武四郎まつりにおけるアイヌの方々の招聘をめぐっては、前々回(第14回)の天候不良による航空機欠航の例もあり、招聘日程に再検討する必要があるが、前回の第15回は札幌からの招聘であったので従来の日程のままであった。第16回は再度新ひだか町から静内民族文化保存会のメンバー



の招聘ということで日程を1日増やして余裕を持たせ、それにあわせまつり前日にアイヌ文化交流事業として「アイヌ文化体験交流会」を開催する方向で年度当初から計画された。目的はまつり当日だけではなくアイヌ民族の伝統文化を、見て・聞いて・学ぶ機会を設けアイヌの人々の歴史や文化への理解を深めることとし、平成23年2月26日(土)14時から16時、ハートフルみくもで開催した。対象は三雲管内(翌年から市内)の小学生とその保護者で、同保存会の15名による民族楽器の演奏や踊りの体験、アイヌ語学習などが盛り込まれた。以後武四郎まつりの前日にアイヌ文化体験交流会を開催する日程を組み、同様な内容でその事業が継続されている(関連資料：表3参照)。

◆23年度

第3回から武四郎まつりのために考えられた三雲新村づくり塾による武四郎鍋の出展が第13回で中断していたが、第17回で武四郎汁の名称で限定200杯のふるまいとして復活、北海道釧路産の海の幸と松阪産の野菜と味噌がコラボして、北海道中小企業家同友会釧路支部と三重県中小企業家同友会のみなさんが提供した。翌年から松阪市食生活改善推進協議会三雲グループの協力のもと、再び「武四郎鍋」として限定200杯の無料ふるまいが行われている。なおこの回の古式舞踊は北海道各地と東京在住者11名からなる「チーム ニカオプ」を招いた。

◆24年度

平成24年度から武四郎まつりをさらに多くの人々、特に子どもたちにアピールするため、実行委員会の主催行事として小学校への出前が新たに計画された。出前イベント「たけちゃんまつり」と称して学芸員による武四郎クイズ、アイヌ語カルタ大会、北海道図パネル、アイヌ文様の切り絵などの内容で、対象は小学生とその保護者とした。手始めに旧三雲町の4つの小学校をまず一巡し、その後状況を見て拡大しようと企画された。その第1回目は12月1日(土)9時30分から12時まで鵠小学校体育館で開催され、約150名の参加があり、催しのあとランチルームで松阪市食生活改善推進協議会三雲グループの協力により武四郎鍋がふるまわれた。

翌年2月23日にアイヌ文化体験交流会、翌24日に第18回武四郎まつりが開催され、アンコラチメノコ ウタラ・12名のみなさんが古式舞踊を披露した。また北海道の「命名の地」碑がある音威子府村から左近勝村長はじめスタッフがまつりに初参加し、「松浦武四郎北海道命名之地」と書かれた特産ようかんをブースで販売し多くの人だかりが出来た。こうして出前イベントたけちゃんまつり、アイヌ文化体験交流会、武四郎まつりの3つの催しが実行委員会による企画・運営事業として、次年度も継続されることになり現在に至っている。

なおもう一つ忘れてはならないことは、平成13年度の項目で少し触れた三雲中学生による大台ヶ原にある武四郎分骨碑の清掃活動である。平成8年に三雲町史編集委員会によって刊行された『ふるさと三雲 今と昔』の「松浦武四郎をしのぶ」を執筆した米本一美氏は次のように記している。



たけちゃんまつり・平成24年12月



大台登山・平成22年8月

「・・・晩年68歳から、深山大台ヶ原へ3度登って開拓を唱え、70歳で最後の富士登山を果たし、明治21年2月10日、東京で71歳の生涯を終えました。大台ヶ原の山の魅力を感じて自らの骨をその山上の名古屋谷に埋めるよう遺言したほどで、のちに分骨され北海翁追悼碑が建てられました。しかし、のち台風で折損したため、昭和40(1965)年三雲村村民一同が碑を再建しました。それ以後毎年夏休み(近年は5月)に三雲中学校では大台ヶ原に登山し、武四郎をしのいで清掃を続ける課外行事を実施しています。(以下略)」

以後この行事は継続されていたが、平成17年の町村合併に伴い、2年間休止。また大台ヶ原は吉野熊野国立公園に立地し、特に武四郎碑がある地域は環境省の自然公園法に基づいて立入りや立入り人数などの制限や利用ルールが定められ、平成19年頃から中学生有志と保護者、教職員を主体に記念館、三雲教育事務所、それに実行委員会がバックアップして登山が実施されている。

◆25年度

第19回(26年2月)のまつりではイベントステージで様似民族文化保存会・14名によるアイヌ古式舞踊、中学生による踊り、獅子舞、しょうがい踊りなどが繰り広げられた。記念館内の企画展示室では鈴鹿市出身の直魅さんによる水墨画と即興演奏によるコラボレーションのパフォーマンスが行われた。同氏は平成16年に全国水墨画秀作展で大賞を受賞されたほか、様々な展覧会で多数の受賞をされている新進気鋭の水墨画家で、最近では水墨画によるアート制作にも取り組み、水墨画アーティストとしても活躍。演奏では愛媛県出身で独学で尺八を学ばれた演奏家新田みかんさんによる尺八演奏と、オーストラリア・アボリジニの楽器ディジュリドゥの日本で数少ない演奏家である三上雅史氏によるアイヌの民族楽器トンコリ演奏で、それらに合わせ水墨画アートのパフォーマンスを行っていただいた。この日は天候にも恵まれ、このところ来場者は3,000～4,000人を推移していたが、第7回と同様に5,000人が会場を訪れた。

◆26年度

平成26年7月6日に小野江小学校体育館で松浦武四郎記念館開館20周年式典を開催し、友の会が武四郎の歌碑を記念館の敷地に建立・除幕式を行った。さらに白老にある一般財団法人アイヌ民族博物館(野本正博館長)開館30周年と、松浦武四郎記念館開館20周年を記念し、姉妹博物館提携調印式と松浦武四郎モニュメントの除幕式がアイヌ民族博物館で10月25日に行われ、あわせて特別展「松浦武四郎とその時代展」も開催された。その後11月30日(日)に松阪市産業振興センターでも開催された「アイヌミュージアムフェア in 松阪」のなかでもアイヌ民族博物館との姉妹博物館調印式が行われた。なお第3回目となる出前イベント「たけちゃんまつり」は同日午前米ノ庄小学校体育館で開催されている。

第20回(27年2月)の武四郎まつりは、第20回目の節目と松阪市制施行10周年記念ということで、国立民族学博物館所蔵資料による「北方民族の装い」展や、武四郎の誕生地に近い幼少の頃学問を学んだ真覚寺では、伊勢大神楽保存会竹上社中による獅子舞演舞などが盛り込まれた。また第12回に続いて2回目の登場となる白糠アイヌ文化保存会・12名による古式舞踊も披露された(詳細は次章参照)。

以下の頁では武四郎まつりのチラシに掲載されたプログラムをもとに、第1回から第20回までのイベント内容を紹介する。組織の名称や表現等についてはできるだけ統一と体裁を整え、とともに、古式舞踊の団体紹介など元の印刷物になかった情報は、アイヌ文化振興・研究推進機構のホームページほかを参照の上、データを追加した。

第1回 武四郎まつり

平成8(1996)年2月25日(日) 9:00～16:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

* 9:00～9:30

オープニングセレモニー：主催者・黒宮哲之三雲町長挨拶／実行委員長等あいさつ／武四郎守り隊演奏／感謝状贈呈(町長より北海道に建立されている武四郎の拓本の軸装を平成7年8月に記念館に寄贈された千賀松生氏に)

* 10:00～12:30

獅子舞：伊勢大神楽・国指定重要無形民俗文化財



◆松浦武四郎記念館内

* 10:00～16:30

館内展示：「武四郎の見たアイヌ民具」国立民族学博物館の所蔵資料による特別展示。

* 13:30～15:00

講演会「蝦夷地と松浦武四郎」秋葉 實(松浦武四郎研究会会長)

◆その他のイベント

* 9:30～15:30

物産展等販売(テントコーナー催し)<13:00～14:00一時中断>

北海道の物産展、三重漁連による鮮魚物産展、三雲町の物産展、うどん、おにぎり、その他。久居市(現在は津市久居)にある清酒メーカーの油正が武四郎にちなんだ日本酒を販売。原料に一志米を使い、ラベルに武四郎が著した「蝦夷漫画」に描かれたアイヌの男性をデザイン。

* 9:30～

甘酒無料サービス(500名分)

* 11:00～

石狩鍋無料サービス(500名分)

* 10:00～15:00

ゲーム

竹細工(竹馬、竹トンボ、ミニ門松、竹の花瓶、鉛筆立て、竹箸)

* 10:00～15:30

書道展[小学校児童・三雲中学校生徒]：事前に小学生3年～中学生3年を対象に課題を与え募集し、小野江小学校体育館で展示した。

* 15:00～

竹ようかん無料サービス(500名分)

前日「前夜祭」として全国ツアー中のアイヌ詞曲舞蹈団「モシリ」による踊りと音楽を披露。昭和56(1981)年結成。縄文の精神＝「共生と循環の思想」を今に引き継ぐアイヌ民族の伝統的な歌・踊り・精神をベースに、新しい歌や踊りを創造するパフォーマンス集団。平成3年から全国各地でコンサートを開催、平成9～20年、活動拠点である弟子屈町屈斜路コタン「シアター丸木舟」でモシリライブを行っている。



第2回 武四郎まつり

平成9(1997)年2月23日(日) 9:30～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

* 9:30～10:00

オープニングセレモニー：挨拶／三雲町を通る旧参宮街道をテーマとした「歴史街道フォトコンテスト」表彰／万作の記念植樹：白老町長・アイヌ民族博物館館長・三雲町長・町議会議長／武四郎守り隊演奏

* 10:30～12:00

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」[☆アイヌ民族博物館伝統舞踊保存会・9名]しょんがい踊り「松浦武四郎翁一代記」[三雲しょんがい保存会]：近江の国から来た蒲生氏郷侯が松坂城を築城するときに、日中夜休む間もなく働かされたお百姓たちが、休む暇を見つけて「こんなことしょうがないしょうがない」と踊りあかしたのが始まりとされている。今回は元詞を「武四郎翁一代記」にかえて踊っていただいた。



◆松浦武四郎記念館内

* 10:00～16:30

館内展示：特別展示「武四郎と白老」

* 13:30～15:00

講演会「北辺の先覚者松浦武四郎」谷澤尚一(松浦武四郎研究家)

◆その他のイベント

* 10:00～15:30

もちつき[村づくり塾]

じゃがバターふるまい[郵便局]：100kg・約400個

ふるまい[商工会青年部・婦人部]：石狩鍋、うどん、トウモロコシ、焼きそば、みたらし、フランクフルト等

北海道・三雲物産店販売[婦人会・一志東部農協]

体験コーナー：竹細工[老人会]

小中学生による書道と歴史街道フォトコンテスト応募全作品展示：小野江小学校体育館



☆アイヌ文化の伝承・保存、並びに調査・研究、教育普及事業を総合的に行う社会教育施設として、昭和51(1976)年、北海道白老郡白老町に財団法人白老民族文化伝承保存財団として設立。昭和59年1月には古式舞踊が国の重要無形民俗文化財に指定される。同年4月、アイヌ民族博物館を並置・開館し、平成2(1990)年に財団法人アイヌ民族博物館に改称、25年に一般財団法人アイヌ民族博物館へ移行。



第3回 武四郎まつり

平成10(1998)年3月21日(土・祝日) 9:00～16:30
ハートフルみくも

◆本部イベント

* 9:00～9:40

オープニングセレモニー：花火の打ち上げと
風船放し／挨拶／武四郎守り隊による演奏

* 9:00～16:30

武四郎のパネルを展示

* 9:50～10:20

ピーロボカブタック・キャラクターショー
＜第1部＞

* 10:30～12:00

講演会「アイヌの歴史と文化」中本ムツ子(千
歳アイヌ文化伝承保存会会長)：アイヌユ
カラ伝承者

* 13:15～13:45

キャラクターショー＜第2部＞

* 14:00～14:30

お楽しみ抽選会

* 14:30～16:30

こもれび由奈コンサート



◆社会福祉部門イベント

* 9:40～15:00

訪問入浴者・介護用品展示、手話体験、つば
さ親の会・母子会バザーなど

* 10:30～11:00

高齢者疑似体験・紙芝居上演

* 11:00～11:30

介護ファッションショー

* 11:30～12:00

手作り介護用品自作講習会

* 12:30～12:45

人形劇

* 12:45～13:15

踊り

* 13:00～13:45

在宅福祉障がい者物語寸劇

◆保健部門イベント

* 9:40～15:00

キッズコーナー、健康食品の試食と展示、ク
イズコーナー

* 9:40～15:00

骨密度測定

* 9:50～15:00

肩こり・腰痛コーナー

* 10:00～15:00

体脂肪測定整体コーナー

* 10:30～15:00

足の裏フォトチェック

* 11:00～15:00

頭の活性度チェック

* 13:00～13:45

整体コーナー

◆松浦武四郎記念館

* 10:00～16:30

館内展示：常設展示「武四郎と考古学」／企画
展示「私のコレクションー珍しいものあれこれ」

＜会場のハートフルみくもと松浦武四郎記念館
はシャトルバスを運行＞

第4回 武四郎まつり

平成11(1999)年2月28日(日) 10:00～15:00
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

* 10:00～10:30

オープニングセレモニー：開会宣言／実行委員長等あいさつ／武四郎まつりのマスコットキャラクターの発表と表彰／武四郎守り隊演奏

* 10:30～12:30

地元郷土芸能：鳳翔太鼓／甚目の虫送り／曾原の獅子舞／舞踊・北の先駆け「松浦武四郎」☆

* 13:00～14:30

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」[帯広カムイトウウポボ保存会・9名]

* 14:30～15:00

地元郷土芸能：しょうがい踊り「松浦武四郎翁一代記」[三雲しょうがい保存会]



◆松浦武四郎記念館内

* 10:00～16:30

館内展示：常設展示「旅と松浦武四郎～幕末から明治にかけて～」／企画展示「“風のたより” 知床探検写真展」

* 10:00～12:00

武四郎クイズ：抽選でオリジナルテレホンカードを50人にプレゼント

* 14:30～

武四郎クイズの抽選開始

* 15:00～16:00

掲示板に当選者発表賞品交換(受付テント)

◆その他のイベント

* 10:30～14:30

北海道・三雲町物産販売チャリティバザー、その他各種バザーなど。

* 10:30～14:30

体験コーナー：竹細工体験



☆鳳翔太鼓：平成6年に伊勢で行われた「まつり博」の市町村デー「三雲町の日」に「しょうがい踊り 松浦武四郎翁一代記」の太鼓の前打ちに出演したメンバーを中心に、米ノ庄公民館「和太鼓講座」として平成7年に発足したグループ。

☆甚目の虫送り：約250年前から甚目の手力男神社に伝わる虫送り「おんやれ」と呼ばれる伝統行事で、昔の人々が悪霊のしわざと思っていた稲作の病害虫や疫病を、たいまつをたいて、かね、ほら貝、太鼓の音で追い払うために行われてきた。毎年7月第2日曜日の午後7時から手力男神社で、勇壮な踊りが展開されている。三雲町を経て市指定無形民俗文化財。

☆曾原 獅子舞：毎年元旦の朝、天白神社で奉納する獅子舞を舞った後、厄年の人の家々をまわって舞を披露している。舞の種類としては、門舞、四方の舞、跳びの舞などで太鼓、笛、ほら貝の音に合わせて舞い踊る。三雲町を経て市指定無形民俗文化財。

☆舞踊 北の先駆け：仕事の合間をぬって練習に励む「三雲桔梗会」の皆さん4名が、北海道の名付け親「松浦武四郎」をたたえる歌、「北の先駆け 松浦武四郎」に合わせて、勇壮な日本舞踊と詩舞を披露。



第5回 武四郎まつり

平成12(2000)年2月27日(日) 10:00～15:00
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:30

オープニングセレモニー：開会宣言／武四郎
守り隊による演奏／実行委員長・市川庄一三
雲町長・来賓あいさつ

*10:30～11:00

地元郷土芸能「曾原のかんこ踊り」[曾原かん
こ踊り保存会]：毎年8月14日の夕方から15
日の早朝にかけて行われている亡き人の供養
と地域の安泰を祈る踊り。

*11:00～12:30

アイヌ民族楽器“トンコリ”の演奏とアイヌ
民族舞踊：北海道愛別町在住の加納オキさん
演奏によるトンコリの伝統曲の数々と帯広幕
別町在住のアイヌ伝統音楽伝承者安東ウメ子
さんの歌とムックリ、打楽器奏者の鈴木キヨ
シさんが共演。

*13:00～14:30

氷刻(氷の彫刻)の実演と体験。芸濃町在住の
中村徹さんの指導により小学生8人が中村さ
んとともに氷の彫刻に挑戦。

*14:30～15:00

地元郷土芸能：しょんがいて踊り「松浦武四郎
翁一代記」[三雲しょんがいて保存会]



◆松浦武四郎記念館内

*10:00～16:30

館内展示：常設展示「武四郎と蝦夷地の地図」
／企画展示「アイヌ文様刺繍体験教室作品展」

*10:30～14:30

お茶会[小野江地区コミュニティセンターで
活動する茶道サークル](館内和室)

◆その他のイベント

*10:30～14:30

物産展等(テントコーナー催し)：産地直送の
牛乳、ヨーグルトなどをはじめとする乳製品
を中心に北海道物産展を開催。また、しんや
のたい焼きをはじめ、とれたての新鮮ないち
ごや野菜の販売など三雲町物産コーナー。そ
のほかにも毛がに、鮭などの販売や武四郎な
べ、温かい甘酒・コーヒーの無料サービ
ス、じゃがバター、チャリティバザー、竹細
工体験、その他各種バザーなど。

*10:00～12:00

武四郎クイズ：正解者の中から抽選でオリジ
ナルテレホンカードを50人にプレゼント。

*14:30～

武四郎クイズの抽選開始

*15:00～16:00

掲示板に当選者発表賞品交換(受付テント)

*終日

武四郎まつり第1回写真コンテスト(イベン
ト会場当日のスナップ写真を大募集！)



第6回 武四郎まつり

平成13(2001)年2月25日(日) 10:00～15:00
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:20

オープニングセレモニー：開会宣言(山本副実行委員長)／武四郎守り隊と小野江小学校の子供たちによるソーラン踊り(街は舞台だ！Yosakoiソーラン)と鼓笛隊の演奏(小さな世界、ザロンゲストデーマーチ、松浦武四郎、翔べ！みくもチョウ、校歌)

*10:20～10:30

感謝状贈呈：三雲町より松浦一雄氏に

*10:30～10:40

実行委員長等あいさつ

*11:00～11:40

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」＜第1部＞[アイヌ民族博物館伝統舞踊保存会・12名]：アイヌ古式舞踊の披露やアイヌ民族楽器のムックリの演奏とともに、会場となる記念館で1月21日と2月4日にアイヌ民族博物館の村木美幸さんらを講師にむかえアイヌ文化体験教室を開催した際の参加者によるアイヌ舞踊も披露。

*12:00～12:30

しょんがゐ踊り「松浦武四郎翁一代記」[三雲しょんがゐ保存会]

*12:40～13:10

ソーラン踊り[小俣町で活動するフィットネスグループ・46人]

*13:50～14:30

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞：＜第1部＞と同じ

*15:00

武四郎まつり終了アナウンス



◆松浦武四郎記念館内

*10:30～16:30

館内展示：特別展示「北海道人樹下午睡図とその周辺」／企画展示「知床の自然写真展」

*11:00～12:00

武四郎クイズ

*11:00～12:00

お茶会[茶道サークル](館内会議室)

*13:00～14:00

お茶会

◆その他のイベント

*10:40～14:30

北海道及び三雲町物産展／町消防団による春季火災予防運動のPR／つきたてのお餅・温かいコーヒー・甘酒のふるまい

*終日

武四郎まつり第2回写真コンテストの開催(会場全体)

第7回 武四郎まつり

平成14(2002)年2月24日(日) 10:00～15:00
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:30

オープニングセレモニー：開会宣言／踊りと演奏[武四郎守り隊]ソーラン踊り「街は舞台だ！Yosakoiソーラン」／鼓笛隊演奏「子供の世界、松浦武四郎、ほか」／実行委員長あいさつ

*11:00～11:40

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」＜第1部＞[☆平取アイヌ文化保存会・15名]
①ウボポ(座り唄) ②チャッピーヤク(アマツバメの踊り) ③ハララキ(大空を舞う鶴の舞) ④イオハイオチシ(恋唄) ⑤ハララキッド(湿原で遊ぶ鶴の舞) ⑥ムックリ(口琴) ⑦フントリ フンチカプ(渡りガラスの踊り) ⑧アンナホーレ(鳥の踊り) ⑨ヤイマサ(即興叙情唄) ⑩ホリッパ(輪踊り)

*11:50～12:00

「武四郎にささげる曲」：平成13年3月に地元三雲中学校を卒業した高橋進太・杉谷和久・山下祐輝さんが中学時代に作詞・作曲した曲を演奏。

*12:10～12:40

しょんがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲しょんがい保存会]

*12:50～13:10

和太鼓と詩舞[TSUGUMIつぐみ]による和太鼓と笛の演奏、また三雲桔梗会も松浦武四郎をたたえる歌「北の先駆け 松浦武四郎」に合わせて勇壮な詩舞を披露。

*13:40～14:30

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞：＜第1部＞と同じ



◆松浦武四郎記念館内

*10:00～16:30

館内展示：常設展示「武四郎の蝦夷地調査」／企画展示「加藤一山翁作品展 一年輪の美に魅せられた巧みの技」／三雲中学校在校生の「アイヌ刺繍展」

*10:00～12:00

武四郎クイズ：正解者の中から先着100名に賞品をプレゼント。

*11:00～12:00 / 13:00～14:00

お茶会[茶道サークル](館内会議室)



◆その他のイベント

*10:40～14:30

北海道及び三雲町物産展などのテントコーナー
一緒に作ろう！竹細工[老人クラブ]
町消防団等による春季火災予防運動のPR：
猛煙体験とパソコンゲームなど

*10:00～15:00

武四郎まつり第3回写真コンテスト



☆アイヌ民族の心のふるさとともいわれる北海道平取町二風谷を中心とした昭和58(1983)年に結成された平取アイヌ文化保存会のかたを招いてのアイヌ古式舞踊披露。昭和59年に国の重要無形民俗文化財の指定を受け、国内及び諸外国の先住民族との国際交流にも力を入れ、世界へのアイヌ伝統文化の紹介。

第8回 武四郎まつり

平成15(2003)年2月23日(日) 10:00～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:40

オープニングセレモニー：開会宣言(森副実行委員長)／武四郎守り隊による演奏／実行委員長等あいさつ／小野江小学校児童による踊り「ヨイショ」

*10:50～11:30

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」＜第1部＞[☆帯広カムイトウウポボ保存会・10名]ムックリ(口琴)の演奏を行いながらウポボ(座り歌)、リムセ(踊り歌)を中心に、歌や踊りを披露。

*12:10～12:40

「武四郎にささげる曲」演奏[三雲中学OB]／ロックバージョン「三雲音頭」「南中ソーラン」の踊り[三雲中学校生徒]

*13:50～14:10

詩舞「北の先駆け」[しょうぶ会]／しょうがい踊り「松浦武四郎翁一代記」[三雲しょうがい保存会]

*14:20～15:00

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞：＜第1部＞と同じ

*15:00～

もちまき[J A一志東部]



◆松浦武四郎記念館内

*10:00～16:30

館内展示：常設展示「武四郎の蝦夷地地図」／企画展示「北海道と武四郎」／特別展「アイヌ刺繍作品展」[三雲中学校生徒]

*10:40～12:00

お茶会[茶道サークル](館内会議室)

*10:40～15:00

ムックリとふるさと切手販売

*11:30～12:10

武四郎研究発表、紙芝居、劇[小野江小学校児童](館内映像ホール)

*12:50～13:50

講演会「武四郎の蝦夷地地図」高木崇世芝(松浦武四郎研究会)



◆その他のイベント

*10:40～

大根プレゼント(先着2000名)

*10:40～11:30

武四郎クイズ：正解者の中から先着200名に記念品をプレゼント

*10:40～15:00

北海道と三雲町物産販売、飲食コーナー
運転シミュレーション

*11:00～15:00

ムックリ演奏体験

*終日

武四郎まつり第4回写真コンテスト(会場全体)



☆1950年代に「十勝アイヌウポボ愛好会」を設立。その後、活動を活発に行っていくため、昭和39(1964)年に「帯広カムイトウウポボ保存会」と改名。昭和59年2月には国の重要無形民俗文化財に指定される。帯広市生活館を活動の拠点にしている。

第9回 武四郎まつり

平成16(2004)年2月29日(日) 10:00～15:00
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:20

オープニングセレモニー：開会宣言／実行委員長あいさつ等／三雲中学校ブラスバンド部による演奏

*11:00～11:40

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」
＜第1部＞[☆阿寒アイヌ民族文化保存会・12名]①タツプカラ ②サロルンリムセ(鶴の舞) ③エムシリムセ(剣の舞) ④ムックリ(口琴の演奏) ⑤色男の舞 ⑥ヘクリサラリ(お盆の投げ合いの踊り) ⑦クリムセ(弓の舞) ⑧フッタレチュイ(黒髪の踊り) ⑨踊り比べ

*12:10～14:10

地元民俗芸能「三雲音頭2003鳴子バージョン」[三雲中学校生徒]／「翔べ!みくもチョウ」[三雲バトクラブ]／しょんがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲しょんがい保存会]

*14:20～15:00

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞：＜第1部＞と同じ

*15:00～

もちまき[J A一志東部]



◆松浦武四郎記念館内

*10:00～16:30

館内展示：常設展示「武四郎の生涯」／企画展示「アイヌ文様のかたち—アイヌ文化体験教室作品展」

*10:40～12:00

お茶会[茶道サークル](館内会議室)

*11:30～12:10

松浦武四郎研究発表「小野江小学校児童」

*12:50～13:50

講演会「松浦武四郎のころ」秋葉 實(松浦武四郎研究会会長)



◆その他のイベント

*10:40～11:30

武四郎クイズ

*10:40～15:00

北海道・三雲町物産販売(飲食コーナー)
雪のイベントコーナー[町商工会青年部]
武四郎まつり第5回写真コンテスト

*12:30～

嬉野大根大抽選会(500本)



☆昭和43(1968)年に結成して以来、アイヌ古式舞踊の伝承・保存活動に尽力されるとともに、ユーカラ劇を創作、ユネスコ・パリ日本文化祭や台湾、ブラジルなど各地で公演し、アイヌ文化を世界に紹介するなどアイヌ文化の振興・普及に寄与。昭和59年には、伝承・保存するアイヌ古式舞踊が国の重要無形民俗文化財の指定を受ける。

第10回 武四郎まつり

平成17(2005)年2月27日(日) 10:00～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:20

実行委員長あいさつ

*10:20～10:50

三雲中学校ブラスバンド部演奏

*11:00～11:30

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」

＜第1部＞[☆白老民族芸能保存会・12名]

①イヨマンテリムセ(熊の霊送りの踊り)

②ムックリ(口琴) ③サロルンチカプリムセ

(鶴の舞) ④イフムケ(子守歌唄) ⑤ハンチカ

プリムセ(水鳥の唄)

*11:40～11:55

松阪地域芸能「松阪しょんがいの踊り」[松阪

しょんがいの音頭と踊り保存会]

*12:00～12:15

三雲中学校による踊り「三雲音頭2005バー

ジョン」「よさこいソーラン」

*12:20～12:30

嬉野地域芸能「燃えて嬉野」[花花世界]

*13:00～13:40

アコースティックコンサート[ACE & POLLA]

*13:45～14:05

飯高地域芸能「飯高清流太鼓」[飯高清流太鼓
保存会]

*14:10～14:25

三雲地域芸能「三雲しょんがいの踊り」[三雲

しょんがいの保存会]

*14:30～15:00

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞:＜第1部＞と同じ

*15:00～15:20

もちまき[J A一志東部]



◆松浦武四郎記念館内

*10:00～16:30

館内展示: 常設展示「武四郎の生涯」/ 企画

展示「アイヌ文化体験教室作品展」

*10:00～16:30

アイヌ民族楽器ムックリ及び松浦武四郎切
手の販売

*10:20～12:00

お茶会[茶道サークル](館内会議室)

*11:30～11:50

武四郎研究発表「小野江小学校児童」



◆その他のイベント

*10:20～11:30

武四郎クイズ: 正解者に粗品プレゼント

*10:20～14:30

雪のイベントコーナー

*10:20～15:00

北海道及び地元物産等各テントコーナー

*終日

武四郎まつり第6回写真コンテスト

☆白老を中心とした地域に伝わるアイヌの無形文化を伝承・保存することを目的に、昭和45(1970)年に結成。ヨーロッパ各国や国内での多数の古式舞踊公演、小学校への出前講座を行うなど、アイヌ文化の普及啓発に積極的に取り組んでいる。昭和59年には、アイヌ古式舞踊が国の重要無形民俗文化財の指定を受ける。



第11回 武四郎まつり

平成18(2006)年2月26日(日) 10:00～15:30
雨天のため小野江小学校体育館に変更

◆イベントステージ

*10:00～10:35

オープニングセレモニー：開会宣言／実行委員長・市長・議長の挨拶／三雲中学校ブラスバンド部による演奏

*10:45～10:55

147年ぶりの再会―松浦家と屈斜路古丹の人々

*11:05～11:35

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」
＜第1部＞[☆弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会・10名]①カムイノミ(武四郎まつりの成功を祈る儀式) ②ウタレオープンパレワリムセ(さあ、立ち上がっておおいに踊りましょう) ③アランベ ④サルキウシナイ(川原の葦が風に吹かれている様子) ⑤ク リムセ ⑥ムックリの演奏

*11:45～11:55

クレシェンドみくもによる合唱「北の先駆け・松浦武四郎、三雲音頭」

*12:05～12:20

三雲中学校踊り「南中ソーラン」「三雲音頭鳴子バージョン」

*12:30～13:20

南ぬ風人まーちゃんによる演奏

*13:30～13:45

飯高清流太鼓[飯高清流太鼓保存会]

*13:55～14:10

しょうがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲しょうがい保存会・松阪しょうがい音頭と踊り保存会](以下三雲・松阪しょうがい保存会と表記)

*14:20～14:50

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞①ウタレオープンパレワリムセ ②シチョチョイ(豊年踊り) ③サルキウシナイ ④アランベ ⑤サロルンチカプリムセ(鶴の舞) ⑥色男の舞

*15:00～

もちまき[J A一志東部]

◆松浦武四郎記念館内

*10:00～16:30

館内展示：常設展示「武四郎の知られざる生涯」
／企画展示「アイヌ文化体験教室作品展」

*10:00～16:30

アイヌ民芸品の販売

*10:35～12:00

お茶会[茶道サークル](館内会議室)

*終日

武四郎まつり第7回写真コンテスト

◆その他のイベント

*10:35～11:30

武四郎クイズ：正解者の中から先着200名に記念品をプレゼント

*10:35～14:30

雪のイベントコーナー

*10:35～15:00

北海道・地元物産展等各テントコーナー

*11:30～11:50

武四郎研究発表[小野江小学校児童](小野江小学校プールサイド)



☆平成元(1989)年結成以来、アイヌ古式舞踊を中心に活動を始め、地域に伝わる伝統儀式・儀礼を復活させるなど積極的に伝承・保存活動を行い、弟子屈町内外の各種文化関係行事に参加し続けている。平成6(1994)年、国の重要無形民俗文化財保護団体に追加される。



第12回 武四郎まつり

平成19(2007)年2月25日(日) 10:00～15:00
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:35

オープニングセレモニー：開会宣言(オープニング曲)／実行委員長・議長・県議の挨拶／三雲中学校ブラスバンド部による演奏：全てが僕の力になる、紅の豚、ハネウマライダー／市長挨拶

*10:50～11:20

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」＜第1部＞[☆白糠アイヌ文化保存会・11名]
①アトイソー(舟こぎの歌舞) ②シッチョ
チョイチョイナー(豊年踊り) ③クリムセ
(弓の歌舞) ④エッサーハンノー(神への感謝
の踊り) ⑤ウポポ(座り歌) ⑥ムックリ ⑦フ
ンペリムセ(鯨の歌舞) ⑧ウタレオープンパレ
ワ(立ち踊り)

*11:30～11:45

アイヌ民族衣装を着ての記念撮影会

*12:00～12:15

しょうがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲・
松阪しょうがい保存会]

*13:00～13:15

三雲中学校踊り「南中ソーラン」「三雲音頭
2007バージョン」

*13:25～13:40

三雲文化協会踊り「愛郷みくも路」[三雲桔梗会]

*13:50～14:20

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞：＜第1部＞の
③クリムセはエムシリムセ(剣の舞)にかわ
り、他は同じ演目

*14:30～

もちまき[J A一志東部]



◆松浦武四郎記念館内

*10:35～16:30

館内展示：常設展示「北海道人樹下午睡図」

*10:35～12:00

お茶会[茶道サークル](館内会議室)

*10:35～15:00

アイヌ民芸品の販売

*11:45～12:00

武四郎研究発表[小野江小学校児童]



◆その他のイベント

*10:30～11:30

武四郎クイズ：正解者の中から先着200名に
記念品をプレゼント

*10:35～15:00

テントコーナー(地域の物産展、バザーなど)

*10:35～15:00

武四郎まつりマスコットキャラクター「たけ
ちゃん」携帯ストラップ販売(限定1,000個)

☆白糠アイヌ文化の調査研究・保存伝承の振興にあたることを目的に、昭和59(1984)年に結成され、古式舞踊を初めとしたアイヌ文化の保存・伝承に努め、毎年アイヌ古式舞踊・儀式など普及活動を町内外の各種文化関係行事で発表し続けている。平成6(1994)年、国の重要無形民俗文化財保護団体に追加される。



第13回 武四郎まつり

平成20(2008)年2月24日(日) 10:00～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:35

オープニングセレモニー：開会宣言(オープニング曲)／実行委員長・来賓の挨拶／三雲中学校プラスバンド部による演奏

*10:40～10:50

バトントワリング[松阪バトンクラブ]

*10:55～11:35

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」
＜第1部＞[☆鶴川アイヌ無形文化伝承保存会・16名]①ウポポ(座り唄) ②フッサヘロ(お祓いの踊り) ③ムックリ(口琴) ④ヤイサマ(競演の舞) ⑤ユーカラ(カムイユーカラ) ⑥イオンルイカ(子守唄) ⑦ハララキ(水鳥の舞) ⑧ホリッパ(輪踊り)

*11:40～11:55

アイヌ民族衣装を着ての記念撮影会

*12:00～12:20

しょんがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲・松阪しょんがい保存会]

*13:00～13:15

大正琴アンサンブル[トレモロファンタジー]
①北の先駆け ②風雪流れ旅

*13:25～13:35

三雲中学校踊り ①三雲音頭 ②南中ソーラン

*13:40～14:00

民謡[日本民謡協会苫小牧支部尺八二代目・伊藤逸栄、唄・押野姉妹]①南部牛追唄 ②十勝馬唄 ③曲びき 津軽しょんがら節 ④江差追分(前唄・本唄・後唄)

*14:10～14:25

しょんがいソーラン[優美連]

*14:30～15:20

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞：演目は＜第1部＞と同じ①～⑧のあと①②⑧を一般の参加者と交流。

*15:20～15:30

もちまき[J A一志東部]

◆松浦武四郎記念館内

*10:40～16:30

館内展示：常設展示「武四郎の生涯」：三重県有形文化財に指定された資料から武四郎の生涯を紹介。

*10:40～15:00

アイヌ民芸品の販売

*10:40～15:30

群読「松浦武四郎の生涯」のビデオ放映[小野江小学校6年生]

◆その他のイベント

*10:40～11:30

武四郎クイズ：正解者の中から先着200名に記念品をプレゼント

*10:40～15:30

テントコーナー(地域の物産展、バザーなど)

*10:40～15:30

武四郎まつり記念グッズ販売：ネクストラップ、ハンドタオル

☆鶴川地方のアイヌ伝統芸能の伝承・保存を図る目的で昭和55(1980)年に設立して以来、積極的に伝承活動を行い、61年には伝統的儀式「シシャモカムイノミ」を鶴川地方で始めた。また、アイヌ古式舞踊の保存・伝承活動に努め、平成6(1994)年、国の重要無形民俗文化財保護団体に追加される。



第14回 武四郎まつり

平成21(2009)年2月22日(日) 10:00～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:25

オープニングセレモニー：開会宣言(オープニング曲)／あいさつ

*10:25～10:40

吹奏楽演奏[三雲中学校吹奏楽部]Happy Birthday / Secret Code他

*10:45～10:55

バトントワリング[松阪バトンクラブ]

*11:00～11:50

アイヌ古式舞踊<第1部>[☆アイヌレブルズ・8名]①ウコウク(輪唱) ②サンキウシナイ(葦が風に揺れている様子を表した踊り) ③サランペ(女性が布を得た喜びを表した踊り) ④シチョチョイ(男耕の踊り) ⑤エムシ・リムセ(剣の舞) ⑥ムックリ ⑦バッタキ(バッタの踊り) ⑧シネオッカイ・トゥメノコ(色男の舞) ⑨ヘクリサライ(お盆取りの踊り) ⑩フッタレチュイ(心臓比べの踊り) ⑪サロルン〜ク リムセ(鶴の舞と弓の舞の融合) ⑫ポロリムセ(大きな輪踊り)

*11:55～12:15

寸劇「武四郎とアイヌの人々」[武四郎守り隊(小野江小学校児童)]

*12:20～12:40

しょうがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲・松阪しょうがい保存会]

*13:00～13:25

詩舞「北の魁 松浦武四郎」[錦水流淡翠吟詠会 三雲支部と三雲桔梗会]

*13:30～13:40

三雲中学校による踊り ①三雲音頭 ②南中ソーラン



*13:45～14:00

鈴おどり[優美連]

*14:05～14:55

「アイヌ古式舞踊」<第2部>：<第1部>と同じ

*14:55～15:10

アイヌ民族衣装を着ての記念撮影会

*15:10～15:30

もちまき[J A一志東部]

◆松浦武四郎記念館内

*10:40～16:30

館内展示：常設展示「北海道人 松浦武四郎」：生涯を旅に生きた松浦武四郎の姿を国重要文化財に指定された資料から紹介。

*10:40～15:00

松浦武四郎記念館友の会啓発活動

◆その他のイベント

*10:40～11:30

武四郎クイズ：正解者の中から先着200名に記念品をプレゼント

*10:40～15:30

テントコーナー(地域の物産展、バザーなど) 武四郎まつり記念グッズ販売

*11:00～14:00

松浦武四郎生家見学：普段見学することのできない生家を一部開放。生家の前の休憩所では、温かいお茶のおもてなし。



☆平成18(2006)年の夏、首都圏に住むアイヌの若者たちが結成した。活動停止直前の活動メンバーは15名。アイヌ民族の伝統音楽と舞踊を土台に、ヒップホップやラップなど現代のストリートカルチャーの要素を加え、独自の音楽・舞踊を作っている。22年6月、「公式ブログ」にて活動停止が宣言された。

第15回 武四郎まつり

平成22(2010)年2月28日(日) 10:00～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

- * 10:00～10:20
オープニングセレモニー：開会宣言(オープニング曲)／実行委員長・来賓の挨拶
- * 10:25～10:40
吹奏楽演奏[三雲中学校吹奏楽部]
- * 10:45～10:55
バトントワリング[MATSUSAKA BATON CLUB]
- * 11:00～11:10
踊り[三雲中学校生徒会有志]①南中ソーラン
②三雲音頭
- * 11:15～11:55
国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」
＜第1部＞[☆札幌ウポポ保存会・13名]
①アーラハオー(賓客である熊を迎え入れた時の歌) ②アシペパルン(芦別河口の歌) ③カネレンレン(カネが沈む岩礁が沈む) ④ヘルトントト(行器の美しさをうたった) ⑤チュプカワカムイラン(東の方からカムイが降りて) ⑥イヨチソーオマン(山に入る時の歌) ⑦トノトソロバ(酒づくりの踊り) ⑧アトイソーカター(海に白波が立つ踊り) ⑨スッチョチョイ(種まき踊り) ⑩ポンチカップ(小鳥の踊り) ⑪チロンヌブリムセ(狐の踊り)
- * 12:00～12:10
劇「武四郎とわたしたち」[武四郎守り隊(小野江小学校児童)]
- * 12:15～12:30
感謝状贈呈式：記念館建設にご尽力いただいた方々に感謝状の贈呈
- * 13:00～13:10
松阪市マスコットキャラクター紹介：たけちゃんとちゃちゃもの初対面
- * 13:15～13:25
演舞[優美連]①武四郎・舞ソーラン②夏祭り
- * 13:30～14:10
「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞：＜第1部＞と同じ
- * 14:15～14:30
アイヌ民族衣装を着ての記念撮影会

- * 14:35～14:55
郷土芸能しょうがい踊り「松浦武四郎一代記」
[三雲・松阪しょうがい保存会]
- * 15:00～
もちまき[J A一志東部]

◆松浦武四郎記念館内

- * 10:25～16:00
館内展示：常設展示「武四郎涅槃図の世界」
- * 10:25～15:00
アイヌ民族体験コーナー：民芸品の販売、民話の語り部、切り絵コーナー
- * 10:25～15:00
松浦武四郎記念館友の会啓発活動

◆その他のイベント

- * 10:25～11:30
武四郎クイズ：正解者の中から先着200名に記念品をプレゼント
- * 10:25～15:00
アイヌ文化体験コーナー(民芸品の販売、民話の語り部、切り絵コーナー)
- * 10:25～15:30
テントコーナー(地域の物産展、バザーなど)
武四郎まつり記念グッズ販売：オリジナルハンカチ
- * 11:00～14:00
「松浦武四郎生家」と今回から武四郎が幼少の頃学問を学んだ「真覚寺」も特別公開。生家の前の休憩所では、温かいお茶のおもてなしとアイヌ民族衣装を着て記念撮影

＜前日、南米チリ中部沿岸で大規模な地震が発生。28日津波警報が発令され、午後の部を中止した＞

☆アイヌ民族文化の正確な伝承・保存を目的に昭和54(1979)年に札幌市で結成、石狩地方のウポポ・リムセの調査・研究と石狩川筋に伝わるウポポ・リムセを伊澤コヤエフチより伝承をうけ、札幌独自のアイヌ古式舞踊を伝承・保存。平成6(1994)年、国の重要無形民俗文化財保護団体に追加される。

第16回 武四郎まつり

平成23(2011)年2月27日(日) 10:00～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:20

オープニングセレモニー：開会宣言(オープニング曲)／実行委員長・来賓の挨拶

*10:25～10:40

吹奏楽演奏[三雲中学校吹奏楽部]

*10:50～11:05

群読と寸劇「松浦武四郎さんから学んだこと」
[武四郎守り隊(小野江小学校児童)]

*11:10～12:00

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」
＜第1部＞[☆静内民族文化保存会・15名]
①ホンチカプリムセ(鳥たちの舞) ②チャピヤ
(アマツバメの舞) ③イセポリムセ(ウサギの
舞) ④ウボポ(座り歌) ⑤ク リムセ(弓の舞)
⑥ホイヤオー(鶴の舞) ⑦チミンチシノッチャ
(どさんこ馬の踊り) ⑧ポロリムセ(輪踊り)

*12:05～12:15

踊り[三雲中学校生徒会有志]①三雲音頭 ②
南中ソーラン

*12:20～12:30

感謝状贈呈式：平成11年「たけちゃん」の生
みの親(デザイン考案者)、前田美穂さんに。



*13:00～13:15

大正琴演奏・コーラス[三雲文化協会(ア
ダージョ、クレシェンドみくも)]①「北の先
駆け 松浦武四郎」②「知床旅情」

*13:25～13:45

インディアンフルート演奏：松阪の老舗菓
子店「柳屋奉善」の社長のかたわら、趣味の
インディアンフルートの演奏活動で最近有
名な岡久司さんに、松浦武四郎をイメージ
して作った曲「カイの道」の披露とアイヌ民
族楽器との即興コラボレーション。

*13:50～14:40

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞①トンコリ・
ムックリ(五弦琴・口琴) ②ホンチカプリム
セ ③チャピヤ ④イセポリムセ ⑤ウボポ ⑥
ク リムセ ⑦ホイヤオー ⑧エルムンコイキ
(ネズミ獲り遊び) ⑨ポロリムセ

*14:45～15:05

しょうがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲・
松阪しょうがい保存会]

*15:10～15:20

もちまき[J A一志東部]

◆松浦武四郎記念館内

*10:25～16:00

館内展示：常設展示「武四郎涅槃図」／大
台ヶ原登山写真展

*10:25～15:00

アイヌ文化体験コーナー：紙芝居、お茶の
試飲、アイヌ民芸品の販売

*10:25～15:00

松浦武四郎記念館友の会啓発活動

◆その他のイベント

*10:25～11:30

武四郎クイズ：クイズに正解した先着200名
に記念品をプレゼント！

*10:25～15:30

テントコーナー(地域の物産展、バザーなど)

*10:25～15:30

武四郎まつりオリジナルグッズ販売：たけ
ちゃんハンカチ／たけちゃんキーホルダー

*11:00～14:00

「松浦武四郎誕生地」「真覚寺」の特別公開と
誕生地前の休憩所でのアイヌ民族衣装を着
て記念撮影

☆アイヌ民族文化の正確なる伝承・保存と観光化されない
活動を目的として、昭和36(1961)年に静内無形文化保存
会として設立、48年9月静内民族文化保存会と改称さ
れ、体制確立を図るとともに、積極的な伝承保存活動に
努めている。昭和59年国の重要無形民俗文化財の指定を
受ける。

第17回 武四郎まつり

平成24(2012)年2月26日(日) 10:00～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

* 10:00～10:20

オープニングセレモニー：開会宣言(オープニング曲)／実行委員長・来賓の挨拶

* 10:25～10:45

吹奏楽演奏[三雲中学校吹奏楽部]

* 10:55～11:10

学習発表「松浦武四郎さんから学んだこと」
[武四郎守り隊(小野江小学校児童)]

* 11:15～12:05

アイヌ古式舞踊<第1部>[☆チーム ニカ
オプ・11名]①uwerankarap(挨拶) ②tapkar
(踏み舞) ③Upopo(座り歌) ④heciri(輪踊り)
⑤hantori hancikap(ワタリガラスの踊り)
⑥kurimse(弓舞) ⑦emuserimse(剣舞)
⑧huttarecuy(榎松舞) ⑨pattakirimse(飛蝗舞)
⑩tonkori(五弦琴) ⑪mukkur(口琴)

* 12:10～12:20

踊り[三雲中学校踊り隊]①三雲音頭 ②南中
ソーラン

* 12:25～12:55

武四郎まつりマスコットキャラクター「たけ
ちゃん」とジャンケン大会

* 13:00～13:10

銭太鼓「北のさきがけ」[三雲文化協会(ほほえ
み太鼓)]

* 13:20～13:40

インディアンフルート演奏[インディアンフ
ルート奏者・岡 久司]

* 13:45～14:35

「アイヌ古式舞踊」<第2部>:<第1部>と同じ

* 14:40～15:00

しょうがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲・
松阪しょうがい保存会]

* 15:10～

もちまき[J A一志東部]

◆松浦武四郎記念館内

* 10:25～16:00

館内展示：重要文化財を中心とした常設展示

「北海道人 松浦武四郎の生涯」／地元の水墨
画家・山越 昭氏筆「アイヌ古式舞踊」／写真
展「北海道に建つ武四郎の記念碑」

* 10:25～15:00

松浦武四郎記念館友の会啓発活動

◆その他のイベント

* 10:25～11:30

武四郎クイズ：クイズに正解した先着200名
に記念品をプレゼント！

* 10:25～15:00

アイヌ文化体験コーナー：アイヌ民族に伝わ
る物語の絵本や口承文芸「ユカラ」の紹介映
像、民族衣装の試着と記念撮影など

* 10:25～15:30

特別展示「夢おこしの会 あんどん」光れ街道
夢おこしの会(代表：前川幸敏)の協力によ
り、武四郎にちなんだ俳句が書かれたあんど
んを特別展示。

テントコーナー(地域の物産展、東日本復興
支援グッズなど)

* 13:00～

特別出展「武四郎汁」限定200杯を無料でふる
まい：北海道釧路産の海の幸と松阪産の野菜
と味噌がコラボして、武四郎まつりのために
誕生した「武四郎汁」を北海道中小企業家同友
会釧路支部と三重県中小企業家同友会による
ふるまい。

* 11:00～14:00

「松浦武四郎誕生地」「真覚寺」の特別公開と誕
生地前の休憩所でのアイヌ民族衣装を着て記
念撮影

☆ニカオプとはアイヌ語で「木の実」を意味する。古い記録
などに基づいて失われたアイヌ文化を取り戻そうと結
成、平成21(2009)年にデビュー以来、アイヌ民族に伝わ
る唄や踊りを愛する北海道内外から集まったアイヌの若
者たちを中心としたグループ。

第18回 武四郎まつり

平成25(2013)年2月24日(日) 10:00～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:20

オープニングセレモニー：開会宣言(オープニング曲)／実行委員長・来賓の挨拶

*10:25～10:45

吹奏楽演奏[三雲中学校吹奏楽部]

*10:55～11:10

松浦武四郎さんから学んだこと[武四郎守り隊(小野江小学校児童)]

*11:15～12:05

アイヌ古式舞踊<第1部>[☆アンコラチ メノコ ウタラ・12名]ウポボ(座り唄)①トンコリ・ムックリ演奏 ②ハートヌブ(あいさつの唄) ③チュプカワカムイラン(山の守り神が降りてくる様子を表現した唄) ④カネレンレン(海の夕日が反射してキラキラ光り輝いている様子の唄) ⑤金のしずく・銀のしずく(アイヌ神謡集から)／リムセ(踊る事) ①スチョチョイ(豊作の踊り) ②バッタキ(バッタの踊り) ③ヘレカンホ(ペリカンの踊り) ④ハンチカップ(水鳥の踊り) ⑤チャピア(雨燕の踊り) ⑥フツタル(松の木がヨシの様に風に揺られている様子の踊り)

*12:10～12:20

踊り[三雲中学校踊り隊]①三雲音頭 ②南中ソーラン

*12:25～12:55

マスコットキャラクター「たけちゃん」とジャンケン大会

*13:00～13:15

尺八と箏の調べにのせて[三雲文化協会]①箏 アイヌの「子の踊り」「ちょうちん行列」②尺八・唄・コーラス「北の先がけ 松浦武四郎」

*13:25～13:40

三重県観光キャンペーン～実はそれ、ぜんぶ三重なんです！～[三重県観光キャンペーンPR隊]桂三輝PR隊長とご当地キャラクター

*13:45～14:35

「アイヌ古式舞踊」<第2部>：<第1部>と同じ

*14:40～15:00

しょうがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲・松阪しょうがい保存会]

*15:10～

もちまき[J A一志東部]



◆松浦武四郎記念館内

*10:25～16:00

館内展示：常設展示「武四郎と幕末の志士たち」／「アイヌ文化体験教室作品展」

*10:25～15:00

松浦武四郎記念館友の会啓発活動

◆その他のイベント

*10:25～11:30

武四郎クイズ：クイズに正解した先着200名に記念品をプレゼント！

*10:25～15:00

アイヌ文化体験コーナー：アイヌ文様の切り絵、アイヌの紙芝居、ムックリ演奏など。

*10:25～15:30

テントコーナー(地域の物産展など)

*13:30～

特別展「武四郎鍋」限定200杯を無料でふるまい[松阪市食生活改善推進協議会三雲グループ]

*11:00～14:00

「松浦武四郎誕生地」「真覚寺」の特別公開と誕生地前の休憩所でのアイヌ民族衣装を着て記念撮影

☆札幌市を拠点にアイヌ民族の文化継承に取り組み、ありのままの私たちの意味のアイヌ語「アンコラチ メノコ ウタラ」をチーム名とする女性グループ。

第19回 武四郎まつり

平成26(2014)年2月23日(日) 10:00～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:20

オープニングセレモニー：開会宣言(オープニング曲)／実行委員長・来賓の挨拶

*10:25～10:45

吹奏楽演奏[三雲中学校吹奏楽部]

*10:55～11:10

武四郎さんから学んだこと[武四郎守り隊(小野江小学校児童)]

*11:15～12:00

国指定重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」
＜第1部＞[☆様似民族文化保存会・14名]
①ホイヤオ(鶴の舞) ②シカタ クイクイ(東風の舞) ③エムシ・リムセ(剣の舞) ④チャピヤ(ツバメの舞) ⑤バツタリ・イウタ・ウポポ(踏み臼の踊り) ⑥フントリ フンチカプ(親子鶴の舞) ⑦エルムン・コイキ(ネズミとり) ⑧ボロ・リムセ(大きな輪の踊り)

*12:05～12:20

中学生による踊り[三雲中学校踊り隊]①三雲音頭 ②南中ソーラン

*12:25～12:45

マスコットキャラクター「たけちゃん」とジャンケン大会

*12:50～13:00

武四郎さんにちなんだ踊り「北の先駆け 松浦武四郎」[三雲文化協会]

*13:05～13:40

曾原獅子舞[曾原獅子舞保存会]①門舞し ②跳び鶴の舞 ③太刀の舞 ④四方の舞 ⑤らんの舞

*13:45～14:35

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞：演目は同上
①②③④／ムックリ／⑤⑥⑦⑧

*14:40～15:00

しょうがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲・松阪しょうがい保存会]

*15:10～15:20

もちまき[J A一志東部]



◆松浦武四郎記念館内

*10:25～16:00

館内展示：常設展示「武四郎をめぐる志士たち」／「アイヌ文化体験教室作品展」／「マクラメ編みによる武四郎にちなんだ作品展」

*10:25～15:00

松浦武四郎記念館友の会啓発活動

*12:25～12:55

水墨画アーティスト直魅さんによるパフォーマンス

◆その他のイベント

*10:25～11:30

武四郎クイズ：クイズに正解した先着200名に記念品をプレゼント！

*10:25～15:30

テントコーナー(地域の物産展など)

*10:25～15:00

アイヌ文化体験コーナー：アイヌ紋様の切り絵、ムックリ(民族楽器)体験など。

*13:00～

特別出展「武四郎鍋」限定200杯を無料でふるまい[松阪市食生活改善推進協議会三雲グループ]

*11:00～14:00

「松浦武四郎誕生地」「真覚寺」の特別公開と誕生地前の休憩所でのアイヌ民族衣装を着て記念撮影

☆様似地方に伝承されているアイヌ古式舞踊を伝承・保存する目的で、昭和58(1983)年に設立される。62年、様似町文化協会に加盟し、以後、同協会主催の文化祭に毎年出演するなど活発に活動し、平成6(1994)年には、国の重要無形民俗文化財保護団体に追加される。

第20回 武四郎まつり

平成27(2015)年2月22日(日) 10:00～15:30
松浦武四郎記念館

◆イベントステージ

*10:00～10:20

オープニングセレモニー：開会宣言／実行
委員長・来賓の挨拶

*10:25～10:45

吹奏楽演奏[三雲中学校吹奏楽部]

*10:55～11:10

武四郎さんから学んだこと[武四郎守り隊
(小野江小学校児童)]

*11:15～11:25

武四郎さんにちなんだ歌ほか[みくもチルド
レン]

*11:30～12:15

「アイヌ古式舞踊」＜第1部＞[白糠アイヌ文化
保存会・12名]①アトウイソーリムセ(舟出
の歌舞) ②シチョチョイチョイナ(豊年踊り)
③チロンヌップリムセ(キツネの歌舞) ④イ
カムツカサンケ(輪唱) ⑤ムックリ(口琴)演
奏 ⑥ムックリ(口琴)体験 ⑦ヘクリサラリ
(盆取り踊り) ⑧ク リムセ(弓の歌舞) ⑨フン
ペリムセ(鯨の歌舞) ⑩ポロリムセ(輪踊り)

*12:20～12:30

武四郎胸像贈呈式

*12:35～12:50

詩吟[小野江コミュニティセンター詩吟の会]
①「題不識庵撃機山図」②武四郎の和歌「陸奥
の～」③「名槍日本号」(今様入り)④歌謡吟
「知床旅情」

*12:55～13:25

マスコットキャラクター「たけちゃん」と
ジャンケン大会

*13:30～13:45

中学生による踊り[三雲中学校踊り隊]①三
雲音頭 ②南中ソーラン

*13:50～14:35

「アイヌ古式舞踊」＜第2部＞：＜第1部＞と同じ

*14:45～15:05

しょうがい踊り「松浦武四郎一代記」[三雲・
松阪しょうがい保存会・米ノ庄子どもしょ
んがい太鼓講座]

*15:10～

もちまき[J A一志東部]

◆松浦武四郎記念館内

*10:25～16:00

館内展示：常設展示「武四郎をめぐる志士た
ち」／「北方民族の装い」展：国立民族学博物
館所蔵のアイヌ、ニブヒ、ウィルタの民族
資料を特別展示。

*12:50～13:30

武四郎クイズ：クイズに正解した先着200名
に記念品をプレゼント！

*10:25～15:00

松浦武四郎記念館友の会啓発活動



◆その他のイベント

*10:25～15:30

物産・飲食コーナー

*12:30～

特別出展「武四郎鍋」限定200杯を無料でふる
まい

*10:25～15:30

アイヌ文化体験コーナー

*10:25～

武四郎スタンプラリー：記念品を先着200人
にプレゼント！

誕生地前お休み処・写真撮影会[小野江まち
づくり協議会]

*11:00～14:00

「松浦武四郎誕生地」「真覚寺」特別公開

*12:50～13:30

「真覚寺」での獅子舞演舞[伊勢大神楽保存会
竹上社中]

Ⅲ 第20回武四郎まつり

1. 概要

宇野 文 男

第20回のまつりは、松阪市制施行10周年記念と20回の節目ということで平成26年度当初から早く実行委員会をたちあげ、準備期間に余裕を持たせようと6月9日に第1回を開催。実行委員長を過去3回の経験がある友の会会長の飯田 秀氏が就任した。

委員長 飯田 秀(松浦武四郎記念館友の会)

副委員長 飯田嘉之(松阪北部商工会)／中村文恵(三雲文化協会)

委員 伊藤常一(松阪市自治会連合会三雲自治会長会)／伊藤 俊(同会)／

鈴木康之(武四郎守り隊：松阪市立小野江小学校)／竹内和久(三雲小野江郵便局)／

中村 淳(三雲地区体育振興会)／鈴木鋭二(一志東部農業協同組合)／

瀬古ルミ(松阪市社会福祉協議会三雲支所)／村田光子(三雲アイリス)／

橋本 肇(松阪市立三雲中学校)／辻原清和(小野江まちづくり協議会)／

中野 恭(松浦武四郎記念館館長)／山本 命(同館学芸員)／

宇野文男(公募委員：元 福井大学教授)

事務局 鈴木 修(三雲地域振興局局長)／竹田正明(同局次長兼地域振興課長事務取扱)／

中島和夫(同局地域振興課主幹)／河井和義(同局地域振興課)

ほぼ10ヶ月間に開催した実行委員会と主な関連事業は以下の通りである(関連資料：表4参照)。

第1回 6月9日：委員長・副委員長の選任、まつりの概要と事業企画、前年度の反省事項、委員会のスケジュール・予算案等の説明・検討

7月6日：松浦武四郎記念館開館20周年式典・参加者450名＜小野江小学校体育館＞

第2回 7月8日：まつりの概要と事業計画案及び大台ヶ原登山案の説明

8月2日：大台ヶ原登山(武四郎分骨碑清掃)の実施・参加者37名

第3回 9月4日：大台ヶ原登山(報告)、出前イベント「たけちゃんまつり」及び武四郎まつりの企画案検討

第4回 10月9日：出前イベント「たけちゃんまつり」企画決定、武四郎まつりの企画案・検討

第5回 11月11日：出前イベント「たけちゃんまつり」最終確認、武四郎まつりの企画案・検討

11月30日：出前イベント「たけちゃんまつり」の実施・参加者144名＜米ノ庄小学校＞

第6回 12月15日：出前イベント「たけちゃんまつり」(報告)、アイヌ文化体験交流会企画案・検討、武四郎まつりの企画決定、運営案・検討

第7回 1月13日：アイヌ文化体験交流会及び武四郎まつりの運営案決定、武四郎まつりの報告書作成提案・了承

第8回 2月3日：アイヌ文化体験交流会及び武四郎まつりの運営・最終確認、武四郎まつり報告書作成を来年度に繰り越し

2月21日：アイヌ文化体験交流会の実施・参加者70名＜ハートフルみくも＞

2月22日：第20回武四郎まつりの実施・参加者3,500名＜松浦武四郎記念館＞

第9回 3月12日：事業報告、決算報告、反省・総括、第21回武四郎まつりに向けて

以下、従来の武四郎まつりに比べ、いくつか工夫した点について述べることにする。

平成21年2月の第14回のまつりから伊勢街道に位置する武四郎誕生地の特別公開を行ってきたが、まつり会場と少し離れているため来場者の行き来がいまひとつであった。そのため今回はじめての試みとしてスタンプラリーを実施した。記念館、郵便局、小野江小学校、真覚寺、武四郎誕生地、お休み処に違う絵柄のスタンプを置き、6カ所を巡ることによってたけちゃんの絵が完成するよう工夫した。また誕生地前のお休み処とともに武四郎が幼い頃手習いをした近くの真覚寺広場では、伊勢大神楽保存会竹上社中による獅子舞の演舞をプログラムに組み、入場者がより多く武四郎誕生地へ足を運んでもらうようにした。その結果例年よりも多く300人が訪れた。

また課題の一つであった早めの広報活動は、12月2日にポスター・チラシの印刷業務が発注、24日にはポスターが完成した。チラシは12月15日の6回実行委員会でプログラムが確定したのをうけてようやく1月14日納品された。ポスターは市内幼稚園・小学校・中学校の171枚、自治会への折り込み74枚ほか、市内各施設、銀行、郵便局、農協など60カ所計419枚、チラシ3,800枚を配布した。1月15日から伊勢街道沿いにのぼりの設置を開始し、順次小野江町内、小学校、公民館、記念館周辺などに広げていった。その際に松阪駅や松ヶ崎駅から伊勢街道を歩いてまつり会場を例年訪れる近鉄の歴史街道ウォーキングの方々に、目印になるよう配慮してのぼりを立てるようにした。

さらに武四郎とアイヌの人たちとの交流の観点から、アイヌ文化をさらに理解していただく一助となる展示会をまつりにあわせ山本命学芸員とともに計画し、第3回実行委員会で提案。平成26年10月2日に山本学芸員と国立民族学博物館で須藤健一館長、齋藤玲子民族文化研究部助教に面会の上協力を依頼し、資料調査と選定を行なった。所定の手続きを経て平成27年2月5日にアイヌ、ニブヒ、ウィルタの民族資料18点を借用、9日と10日に記念館の壁面展示ケースに展示した。タイトルを「北方民族の装い」とし、まつりの話題づくりのため12日から一足早くオープンさせた。展示資料にはかつては長く旧東京大学理学部人類学教室に保管されていたものもあり、民族学・考古学・人類学の先覚者として知られる鳥居龍蔵博士(1870～1953年)が、明治32(1899)年に千島列島で調査・収集した資料の一部も含まれていた。また企画展示室にはスーツケースに民族資料を詰め込んだ教育キット「みんぱっく」の「アイヌ文化にであう」の資料類をまつり限定で展示した。まつりの当日にはアイヌ・北方先住民文化研究を専門とする齋藤助教による展示場でのギャラリートークをしていただき、入館者から質問が相次いでいた。展示は3月22日に閉幕、24日撤収、26日に民博に返却し一連の作業は終了した(関連資料：表4-5、図1参照)。

松浦武四郎記念館が20年の博物館活動の歴史を積み重ね、それにより松浦武四郎が歴史上の人物から身近な存在として世に知られるようになってきた。6月24日にNHKの「歴史秘話ヒストリア」の番組で「北の大地に夢を追え～“北海道”誕生の秘密～」と題して、さらに同週末民放でも武四郎を取り上げて放映された。知名度のアップにともなって、今後どのように広報普及活動を展開していくのか。武四郎まつりの第20回を終えた今、まつりそのものも一つの区切りとして事務局体制や委員会のあり方と役割分担、出展団体の出展費用やそのルールづくり等、新たな課題もいくつかあり長期的展望に立って改めて見直す時期にきている。

武四郎まつり20年の重みをかみしめるとともに、郷土の偉人について単なる顕彰ではなく、武四郎の精神を次の世代に継承させ、個性豊かなまちづくりに資する「武四郎まつり」のあり方について、3年後の武四郎生誕200年をみすえて平成27年度の第21回武四郎まつり実行委員会において検討する時期に来ている。

2. まつりを振り返って

平成27年3月12日に開催された第9回の実行委員会での各委員からの反省点等を箇条書きにし、6月15日開催の平成27年度第1回委員会で報告された第20回武四郎まつりについて、主な事項を一部補足の上掲載しておくことにする。

会場配置について

- いせや裏も会場スペースとして使用させて頂くことで広くなり良かったが、マイクの声が届いてなかったように感じた。
- 記念館東側のひさし下にも、机と椅子を配置して、食べるところを設けては。
- 駐車場に、緊急使用できる公用車のスペースを確保すべき。
- 肥留神社横の土地も駐車場として、借りるようにしてほしい。
- 街道内にトイレの設置と案内看板の設置を。

準備物について

- 雨天用のテントを急きょ用意したが、天井の幕は透明のものはなかったのか。
- 雨天用にステージ上の水を吸い取るために、モップが必要。

まつり全体について

- 天候判断について委員長をはじめ、しっかり判断・対応して頂いたので良かった。
- 振興局スタッフが多くて、助かった。
- 実施日に市が主催のイベントが他の場所で開催されたが、役所内で情報を共有して重複を出来るだけさけるようにすべきではないか。
- 近鉄ウォーキングは昨年600人、今年は200人と聞いているが、毎年まつりと同日に開催されているので、近鉄とタイアップしてイベントを行ってはどうか。
- 実行委員会がもっと関わってまつりを行っていったらどうか。
- 事務局の担当を増やしてはどうか。
- 最終確認がなく、当日、何をしてよいか解らないまま、まつりのスタッフとして参加された委員もみえたのではないか。役割をもっとはっきりと事前しておくべきである。
- 作業部会の検討を。

ポスター・チラシについて

- タイムスケジュールが載っているのに、チラシの全戸配布を検討しては。
- 雨天のことについて、チラシに開催場所やプログラム内容の記載を。
- 駐輪場の記載が必要。

イベント内容について(出演・出展ほか)

- 出演者・出展者にも忘れ物がないように確認すべき。
- プログラムは時間通りに行っていくべき。
- 飛び入り参加出来る企画を設けるのはどうか。

- 小学校の子どもとアイヌの団体のコラボについて、アイヌの団体と打合せをする時間がほしい。
- ジャンケン大会の参加者が少なく、早く終わってしまったので、空き時間を埋める企画を考えておくのも一つの方法ではないか。
- 午前中の盛り上がりがトーンダウンしている気がしたので、最後にむけて盛り上げる企画を。
- 館内展示が良かった。
- 誕生地の見学時間を考え直す必要がある。
- 誕生地や真覚寺までいっていただくため、お休み処や写真撮影会、獅子舞演舞等色々な企画で、多くのかたに訪れてもらえたように感じた。
- もちまきについて、イベント進行係もスタッフとして参加するが、押し合い等で危険なので、男性スタッフにお願いしたい。
- 真覚寺での獅子舞をイベントステージでもらってもよかったのでは。
- 体験コーナーについては、パズルは場所をかなり取るのでいらないと。
- スタンプラリーの用紙にたけちゃんを薄くプリントしたらもっとよかった。
- スタンプラリーの案内図がわかりにくかった。
- スタンプラリーの用紙を多目に配ってはどうか。また用紙に集めたら参加賞がもらえるとの記載がなかった。
- 洗い場での分別活動に、協力的なかたが増えたように感じた。
- 食べ物のふるまいが多すぎるように感じた。
- 並んだ人のみありつけるふるまいの形式をやめて、販売の形式ではどうか。
- ふるまいをやめることにより、食べ残し等も減るのではないか。
- 出展者の中に、販売開始時間よりも早く販売を始めている業者がいたので、ルールの徹底をお願いしたい。
- ジャガバター担当からの意見を総合すると、職員でジャガバターの出展をするのは難しい。希望するなら、有志でする等を考える必要がある。
- 商工会担当は、風船を配るのにずっと一人必要だったので、配布の手伝いと別にしては。
- 出展のありかたも検討していく必要がある。



前日のイベント(アイヌ文化体験交流会)について

- 参加人数が少ないので、関心を集めることの出来るものにする必要がある。
- 委員は時間があれば参加してほしいとのことだが、参加するなら参加するとはっきりしては。
- 前日のアイヌ団体の送迎について、振興局管理のバスがなくなった後の事も考えていく必要がある。

その他

- 昨年と天気の悪かった今年と来場数に1,000人の差があったが、そこまでの差を感じなかった。
- 雨天時の問い合わせが多いので、インターネット等を通して、開催等の旨を告知の広報を。
- 雨天時の会場配置や設備、プログラム等についての打合せをもっと小学校とすべき。
- 出前イベント「たけちゃんまつり」では、地域のイベントと同日することで良い面と悪い面それぞれ

あったので、色々と検討すべき。

- 出前イベントやアイヌ文化体験交流会を実行委員会の仕事と位置づけるのか、事務局(地域振興課)主導の現在の形のままとするのか検討すべき時期では。
- 作業部会を設け、担当を複数配置していく。

＜平成27年度への課題＞

- 事務局の体制について：担当人数の増
- 実行委員会について：規約の見直し、役割の分担等
- 出展団体について：出展希望者の扱い、出展の際の費用・ルール等

3. 実行委員長として

第20回武四郎まつり実行委員会 委員長 飯田 秀

今回は、「第20回武四郎まつり」という一つの区切りの年であり、今まで以上に情報発信の拡大を図り「のほり旗」を早くから三雲館内の伊勢街道沿いや松阪駅・伊勢中川駅周辺と各公民館などに設置し、さらにポスターについても設置場所の工夫に努めた。その効果かどうかかわからないが、平成27年2月22日(日)の武四郎まつりには天候が悪いなかを地元の方を含め、県内外から3,500名という多くの方々にお越しいただいた。松浦武四郎記念館の会場については、前回非常に混雑したので食事場所を一カ所にまとめる、販売用のテントの配置等、来られた方々に負担のかからないようレイアウトを変えた結果、人の流れも非常によかったと思う。

オープニングセレモニーには、鈴木英敬・三重県知事と東京から駆けつけていただいた衆議院議員・田村憲久氏にご祝辞をいただき、武四郎まつりに華を添えてもらったことは実行委員長として感謝する次第である。

今回のまつりは節目の20回であり武四郎を顕彰するために、昨年松浦武四郎記念館の開館20周年記念式典後、記念館玄関横に県下で初めて武四郎自詠の和歌の歌碑を建立した。まつり前日には、関西・東海地方で採拓活動を通じて美術芸術及び歴史の知識を高めるグループ「かぎろひ拓本会」(奈良県橿原市)の南部孝会長さんが、歌碑の元となった武四郎自筆の拓本を額縁に入れて届けられた。それをまつり当日館内入口正面に飾って多くの方に見てもらったところ、多くの皆さんが記念撮影をしておられた。またその詩を地元の詩吟サークルの方々にお願ひ披露したところ、会場の皆さんも真剣に耳を傾けておられ、武四郎を顕彰できたことを実行委員長として改めて皆さんのご協力に感謝申し上げたい。

また大阪の国立民族学博物館からアイヌ民族資料をお借りして、まつりにあわせて展示した「北方民族の装い」展も入館された方が熱心に見学する光景が目にとまった。

今回懸案の一つだったまつり会場と武四郎誕生地の往来は、はじめて試みたスタンプラリーによって、思いのほか効果があったように思う。武四郎が幼少時代によく遊んだ真覚寺広場での「獅子の寄せ舞い」や誕生地やその前のお休み処など、誕生地のある伊勢街道にも今までにない多くの方々が訪れて約300名に達した。一方まつり会場でも白糠アイヌ文化保存会のアイヌ古式舞踊をはじめ、イベントはおおいに盛り上がり、また販売面でも既述したように飲食テントの配置などの工夫により、今回の武四郎まつりが大成功に終わることができた。これもひとえにスタッフ・実行委員会・関係者の方々のご協力があればこそと改めてお礼申し上げる次第である。

IV 今後に向けて

「武四郎守り隊」と「武四郎まつり」、そして「武四郎カリキュラム」

松阪市立小野江小学校 校長 川中英世

平成6年6月、松浦武四郎記念館の開館に先立ち、小野江小学校に「武四郎守り隊」が結成されました。当時の小野江小学校の先生から、開館前の記念館周辺の清掃活動と、将来、北海道の小学校と交流することを目標にスタートしたと、お話を伺っています。

当初は、全校児童に希望者を募り、複数学年の子どもたちが活動をはじめたそうです。その後、「武四郎まつり」でステージ発表を行うようになり、6年生が武四郎守り隊として出演をするようになりました。

今や武四郎守り隊である小野江小学校6年生の子どもたちにとって、武四郎まつりでの発表は、小学校生活6年間の「武四郎学習」のまとめとして位置づけられています。また、結成当時の目標であった北海道の小学校との交流は、5年前から弟子屈小学校と始められています。お互いの学校の様子を紹介しあったり、学校園で育てたサツマイモを北海道に送ったりしています。北海道からは、ジャガイモを送っていただいたこともありました。

6年生が卒業式前の2月の最終日曜日の「武四郎まつり」において、「武四郎さんから学んだこと」を発表することが定着するとともに、小野江小学校では「武四郎学習」が、カリキュラムとして整備がされていきました。郷土の偉人である武四郎さんのことを、以前から折々に子どもたちは学んできましたが、その学びを1年生から6年生まで系統立てて、さらに教育課程の中に組み入れるように、取り組んできました。そうして出来上がった「武四郎カリキュラム」に従って、現在では小野江小学校の子どもたち全員が、武四郎さんのことを学ぶようになっています。北海道の小学校との交流や、「武四郎カリキュラム」が創られていくきっかけとなったのが、「武四郎まつり」であると言えます。

小学校の子どもたちは、いろいろな行事の中で保護者や地域の方々の前で発表する機会が何度かあります。小野江小学校の6年生は、さらに「武四郎まつり」において、会場にあふれんばかりの来場者の前に立っての発表を行います。それは小学校生活6年間で、学んできた郷土の先輩、松浦武四郎さんからの学びのまとめです。これは、小野江小学校だから行える大きな特色となっています。

武四郎まつりと三雲中学校

松阪市立三雲中学校 校長 川口朋史

私は、この三雲の地域とご縁ができて、わずか一年余りですが、松浦武四郎記念館と小野江コミュニティセンターがともに20周年であり、武四郎記念館が開館したことを一つの契機としてこのまつりが始められたことが容易に想像できます。このことは、まさに武四郎記念館が地域に認知され、地域に根差した博物館であること、そして何よりこの地域が生んだ松浦武四郎を、人としての生きざま、またその業績をこの三雲地域の偉人として顕彰していこうという地域住民の方々の意志の証左であると思います。

本校でも、郷土教育はもちろんのこと、人権教育においてもアイヌの人々、アイヌ文化のよき

理解者として、時代に先駆けて、個人の尊厳や多文化共生という人権に対する卓越した感覚を持つ松浦武四郎に学ぶ人権教育を進めてきた歴史があります。

本校と武四郎まつりとの最も大きい接点は、吹奏楽部が、この武四郎まつりで毎回、演奏の機会をいただいていたことです。吹奏楽部にとってこのまつりでの演奏は、貴重な演奏の場であるとともに、特に保護者の方だけではなく、地域の方々にも三雲中学校の生徒の演奏を聴いていたで、またとない機会となっていることです。

また、生徒会で組織した踊り隊で「南中ソーラン」を披露する機会をいただいています。初期には、まつりに参加するために組織された踊り隊ですが、今では、学校行事で全校生徒にも踊りを披露しています。また、ここ3年ぐらひは、まつり実行委員会の要請もあり、着ぐるみ隊としても参加をさせていただいています。

このように地域のまつりにいろいろな形で直接関わっていくことは、単に参加すること以上に、地域を構成する一人として、その自覚、郷土意識が高まるものと期待できます。また昭和40年代から本校では三雲村(現在は三雲地域振興局)の支援を受けて武四郎の分骨碑がある大台ヶ原への登山を実施し、武四郎の足跡をたどり、碑の清掃活動を行うことにより、学校・家庭・地域が一体となって生徒の規範意識や倫理観の育成に取り組んでいます。まさしく、郷土教育としても意味があり、大きくはアイデンティティの確立にも関わってくると考えます。今後とも地域に開かれた学校として歩む三雲中学校の教育活動の一端として、元気で明るく活動する生徒を見守っていただきたいと思っています。

第20回武四郎まつりに参加して

国立民族学博物館 民族文化研究部 助教 齋藤玲子

はじめに

かねてより、武四郎まつりに携わってきたアイヌ文化関係者から、評判は聞いていた。大変にぎわっていて、来場者のアイヌ文化への関心も高いというものだった。今回初めて、前日のプレイベント「アイヌ文化体験交流会」から、まつり当日まで見学・参加させていただき、考えたことを記したい。

地域に根づいたまつり

まつりの内容は盛りだくさんで、ステージと物産販売ともにさまざまな団体が担っていることに感心した。スタッフはきびきびした動きと慣れた対応で、これまでの経験と周到な準備が感じられた。ステージでは、とくに地元の小中学生の発表に注目させられた。第7回(平成14年)に、中学生による「武四郎にささげる曲」の演奏が始まり、翌8回には、小学生による武四郎研究発表として紙芝居がおこなわれたという。以来、曲や研究発表の形態を変えながらも、学習発表が続いていることはすばらしい。武四郎をとおして郷土、そして彼が旅した日本各地や江戸から明治という時代について知り、現在のくらしを見つめ直すことができる。学習成果の校外での発表は、子どもたちには貴重な経験である。地元に対する誇りが育まれ、そうした子どもたちが成人して、まつりを支える側になっていくだろう。

さらに、来場者たちもリピーターと思われ、イベントのプログラムや物産・飲食コーナーの店をよく知っており、目当てのものを鑑賞したり、購入するという目的を持って来ているように見えた。武四郎ゆかりの地の物産品などを、歴史・文化的背景もふくめて味わう楽しみがある。

アイヌ文化への関心と理解

松浦武四郎の業績のなかでも、北海道探検をクローズアップしているのがまつりの特徴となっている。武四郎は、ことばも通じず、生活習慣も違っていたアイヌの人びとと親しくなり、行く先々で道案内や、食物・宿の提供を受けた。当時のアイヌが置かれていた状況やその文化に関する武四郎の記録は、現代のアイヌの人びとにとって祖先を知ることができるものとして、また、研究者にとっても貴重なものである。

いま、アイヌ民族としてのアイデンティティを持っている人たちのふだんの生活は、もちろん一般的な日本人と変わらない。しかし、(ことに北海道外で)アイヌ民族の歴史や文化、そして現状について知る機会は少なく、誤解もある。今回、プレイベントの交流会参加者とステージのアイヌ舞踊を鑑賞する来場者の熱心さには感銘した。アイヌ文化の担い手たちとの交流は、伊勢とはまったく異なる蝦夷地を旅した武四郎に思いをめぐらせ、異文化理解の契機ともなっているだろう。

継続の力

近年、文化遺産がますます注目されるようになっている。武四郎の功績も、地域の人びとが掘り起こし、伝えていくことで、次代への財産となる。まつりの継続は、着実に武四郎の遺産をつなぐ手段となっている。そう感じさせられた2日間であった。

本書に寄稿いただいた齋藤さんは、北海道立北方民族博物館学芸員、2011年より国立民族学博物館。専門分野はアイヌ・北方先住民文化研究。今回の武四郎まつりの特別展「北方民族の装い」でご協力いただき、まつり当日には展示会場でギャラリートークもしていただいた。下記の記事は毎日新聞に民博の研究者が交代で毎週連載しているコラムを、本人の了解を得て民博のウェブサイトから転載した(宇野)。

「交流の場」『旅・いろいろ地球人』踊る(5) 齋藤玲子(国立民族学博物館助教)

『毎日新聞(夕刊)』掲載

2015年6月11日刊行



白糠(しらぬか)アイヌ文化保存会
による踊りに見入る観客たち＝

三重県松阪市で2月22日、筆者撮影

関西でアイヌ文化に触れられる場はさほど多くない。アイヌの人たちと直接交流する機会はさらに限られるだろう。国立民族学博物館では、それまで休館日に行われてきた儀式「カムイノミ」を2007年から一般公開するようになった。

しかし、そのずっと前から地域に定着してきたアイヌ文化に関する行事がある。三重県松阪市の「武四郎まつり」で、今年で20回を数えた。このまつりは、幕末から明治を生きた探検

家で北海道の名付け親としても知られる松浦武四郎(1818～88年)の功績を称(たた)えるものだ。武四郎は蝦夷(えぞ)地と呼ばれた北海道でアイヌの協力を得ながら6回もの調査を敢行、詳細な地図をはじめアイヌ文化や動植物等について貴重な記録を残した。1994年に生家近くに記念館が開館して以来、彼が没した2月にまつりが開かれている。

まつりの目玉の一つが「アイヌ古式舞踊」で、毎年各地から踊り手を招聘(しょうへい)してきた。踊りが始まると大勢の人が集まり、その関心の高さに驚く。10ほどの演目の最後は観客もステージにあがり、輪踊りで盛り上がった。実は前日にアイヌ文化体験交流会があり、市民らが踊りを楽しんだ。アイヌ文化保存会の方たちもまつりを心待ちにしていたという。一緒に体を動かせる踊りは、交流にふさわしい出し物でもある。

「武四郎まつり」と共に歩む松浦武四郎記念館

松浦武四郎記念館 館長 中野 恭

「この大勢の人たちは、皆、武四郎さんのファンなんでしょうね。武四郎さんの生き方に惚れ込んだ人たちが、こんなにもたくさん集まれるんですね。」・・・これは、第20回「武四郎まつり」に他府県よりお越しいただいたご夫妻が、私にささやかれたつぶやきである。

武四郎まつりの会場には、天候不順にもかかわらず、県の内外より3,500名の方々がかけつけていただいた。まつりへの参加の動機は、様々だと思われるが、まさに、武四郎さんを慕い、武四郎さんを偲ぶという「厚い思い」を携えて、お越しいただく方々が多くなっていることは事実である。

松浦武四郎は、幕末、伊勢国一志郡須川村で生を受け、「旅に明け、旅に暮れる」生涯を全うしつつ、明治の半ばまで、「激動の時代」を生き抜いたが、彼が生きた「時代の証」が、その時々の武四郎まつりに集約されていることが如実に伺える。

通算20回を数える武四郎まつりには、回を追うごとに、「その時期時期の色合い」が醸し出されているといえよう。松浦武四郎記念館の建設及び開館の時期には「三雲が輩出した郷土の偉人」顕彰の意が、また、開館10周年の頃には「記念館が隆々としていく」発展の意が、加えて、生誕190年の節目には「北の大地との絆を深めていく」友好の意が、それに、開館20年の本年には「幕末の北方探検家であると共に北海道の名付け親である松浦武四郎を全国に発信していく」円熟の意が、まつりの内容及び運営に、それぞれ色濃く反映されたに違いない。

これまで、まつりに参加された方々は、その「息吹」を感じながら、アイヌ民族の皆様方が演じる「古式舞踊」を目にし、その勇壮さと華麗さに酔いしれると共に、武四郎と北の大地の「ご縁」に思いを馳せ続けたのであろう。

顧みれば、松浦武四郎記念館は、武四郎まつりと共に歩み続け、記念館の折々の成果や課題に呼応するかのように、武四郎まつりの内容及び運営が構成されてきた。そのことによって、まつりへの参加者が武四郎への思いを深め、そして、武四郎まつりが発展してきたのである。

あたかも、武四郎の旅が「彼の健脚」を支え、彼の健脚が「武四郎の旅心」を育んだ如く、武四郎記念館が「まつり」を深め、武四郎まつりが「記念館の発展」を促してきたといえよう。

折しも、平成30年には松浦武四郎翁生誕200年の節目を迎える。三雲が輩出した松阪の偉人を顕彰する「武四郎まつり」が、それを契機として益々羽ばたき、幾久しく回を重ね、歴史を積み上げていくことを、切に切に願う次第である。

V 関連資料

表1 武四郎まつり歴代委員長・副委員長

回	年度／開催日	委員長	副委員長	
1	平成 7年度／ 8. 2. 25(日)	太 田 勇	田 中 寛	金 子 慎 一
2	平成 8年度／ 9. 2. 23(日)	伊豆川政夫	田 中 寛	—
3	平成 9年度／ 10. 3. 21(土・祝)	伊豆川政夫	—	—
4	平成10年度／ 11. 2. 28(日)	田 中 寛	日 高 晴 美	南 清
5	平成11年度／ 12. 2. 27(日)	中 井 吉 夫	西 井 恵 子	南 清
6	平成12年度／ 13. 2. 25(日)	野田耕一郎	伊豆川政夫	山 本 孝 雄
7	平成13年度／ 14. 2. 24(日)	伊 藤 幸 治	中 村 良 子	山 本 孝 雄
8	平成14年度／ 15. 2. 23(日)	清 水 順 一	森 靖 久	山 本 孝 雄
9	平成15年度／ 16. 2. 29(日)	森 靖 久	大 塚 恵 子	—
10	平成16年度／ 17. 2. 27(日)	伊豆川政夫	森 靖 久	渡 辺 幸 代
11	平成17年度／ 18. 2. 26(日)	渡 辺 幸 代	斎 藤 清 治	森 靖 久
12	平成18年度／ 19. 2. 25(日)	高 瀬 英 雄	斎 藤 清 治	清 水 順 一
13	平成19年度／ 20. 2. 24(日)	高 瀬 英 雄	萬 濃 淳	奥 西 猛
14	平成20年度／ 21. 2. 22(日)	萬 濃 淳	飯 田 秀	浜 口 照 喜
15	平成21年度／ 22. 2. 28(日)	萬 濃 淳	飯 田 秀	角 谷 博
16	平成22年度／ 23. 2. 27(日)	飯 田 秀	萬 濃 淳	朝 倉 隆 博
17	平成23年度／ 24. 2. 26(日)	飯 田 秀	伊豆川政夫	伊 坂 光 男
18	平成24年度／ 25. 2. 24(日)	飯 田 秀	中 村 文 恵	森 暢 宏
19	平成25年度／ 26. 2. 23(日)	村 田 光 子	中 村 文 恵	田 中 恒
20	平成26年度／ 27. 2. 22(日)	飯 田 秀	中 村 文 恵	飯 田 嘉 之

表2 松浦武四郎記念館アイヌ文化体験教室

年度	実施日	実施場所	体験内容	講師名／参加人数
平成11	9/26・10/24・12/5・1/23*	松浦武四郎記念館	アイヌ文様刺しゅう	上武やす子 各15
平成12	1/21・2/4*	松浦武四郎記念館	アイヌ古式舞踊	村木美幸・高橋志保子 25
平成13	2/17	松浦武四郎記念館	アイヌ料理	居壁リセ子・床 絵実 16
平成14	2/2	松浦武四郎記念館	アイヌ楽器ムックリ	居壁 太 15
平成15	1/25	松浦武四郎記念館	アイヌ文様刺しゅう	星野 工 15
	2/1	松浦武四郎記念館	アイヌ文様木彫り	居壁 太 15
平成16	1/30	松浦武四郎記念館	樹皮編み体験	阿部弘美 13
平成17	10/29～30	松浦武四郎記念館	アイヌ切伏文様刺しゅう	宇梶静江 12
平成18	9/29	小野江小学校	講演会	宇梶静江 小学生約170
	9/30～10/1	松浦武四郎記念館	アイヌ民族衣装モウル制作	宇梶静江 15
	1/19	三雲中学校	講演会	高野繁廣 中学生約150
	1/20～21	松浦武四郎記念館	アイヌ文様木彫り	高野繁廣 13
平成19	9/28	三雲中学校	講演会	押野千恵子 中学生約150
	9/29～30	松浦武四郎記念館	アイヌ古式舞踊	押野千恵子 20
	1/13～14	松浦武四郎記念館	アイヌ文様ベスト制作	涼宇古 15
平成20	11/28～30	松浦武四郎記念館	アイヌ文様ポシェット制作	宇梶良子 15
	11/30	飯高産業振興センター	アイヌ文様コースター作り	宇梶良子 20
平成21	10/30	小野江小学校	講演会	宇梶良子 小学生50
	10/31～11/1	松浦武四郎記念館	アイヌ文様エプロン制作	宇梶良子 10
平成22	10/29	小野江小学校	アイヌ文様木彫り	星野 工 小学生20
	10/30	松浦武四郎記念館	アイヌ文様木彫り	星野 工 12
	1/28	小野江小学校	アイヌ文様刺しゅう(バンダナ)	上武やす子 小学生31
	1/29～30	松浦武四郎記念館	アイヌ文様刺しゅう(タペストリー)	上武やす子 15
	3/20～21	松浦武四郎記念館	チタラベ(ござ編み)	上武やす子 6
平成23	6/24～26	松浦武四郎記念館	サラニブ(編みかご)作り	長縄由加利 12
	7/29	三雲天白公民館	アイヌ料理体験	長縄由加利 15
	7/30～31	松浦武四郎記念館	サラニブ(編みかご)作り	長縄由加利 12
平成24	9/28	小野江小学校	アイヌ文様刺しゅう	宇梶良子 小学生24
	9/29～30	松浦武四郎記念館	アイヌ文様刺しゅう「樺太アイヌ」文様	宇梶良子 18
平成25	9/8	松浦武四郎記念館	楽器演奏・歌・古式舞踊	居壁太・平田幸・工藤千秋 40・33
	9/9	小野江小学校	アイヌ文化のお話・歌・ムックリ演奏	居壁太・平田幸 小学生27
	11/29～12/1	松浦武四郎記念館	アイヌ文様刺しゅう(ストール)	宇梶良子 20
平成26	8/29	松浦武四郎記念館	アイヌ文様刺しゅう(大判ハンカチ)	宇梶良子 小学生21
	8/30～31	松浦武四郎記念館	アイヌ文様刺しゅう(ショルダーバック)	宇梶良子 16

アイヌ文化振興・研究推進機構のアイヌ文化活動アドバイザー派遣事業(*印はアイヌ文化体験交流会開催助成事業)の助成による。

表3 武四郎まつりにおける古式舞踊等公演

回	年度	委員長	参加	概要
1	平成 7	豊岡征則とアイヌ詞曲舞踊団モシリ	15	コンサート
2	平成 8	アイヌ民族博物館伝統舞踊保存会	9	古式舞踊上演
3	平成 9	中元ムツ子氏	1	ユカラと講演
4	平成10	帯広カムイトウウポポ保存会	9	古式舞踊上演
5	平成11	加納オキ・安東ウメ子・鈴木キヨシ	3	トンコリ演奏と古式舞踊上演
6	平成12	アイヌ民族博物館伝統舞踊保存会	12	古式舞踊上演
7	平成13	平取アイヌ文化保存会	15	古式舞踊上演
8	平成14	帯広カムイトウウポポ保存会	10	古式舞踊上演
9	平成15	阿寒アイヌ民族文化保存会	12	古式舞踊上演
10	平成16	白老民族芸能保存会	12	古式舞踊上演
11	平成17	弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会	10	古式舞踊上演
12	平成18	白糠アイヌ文化保存会	11	古式舞踊上演
13	平成19	鶴川アイヌ無形文化伝承保存会	16	古式舞踊上演
14	平成20	AINU REBELS(アイヌレブルズ)	8	古式舞踊上演
15	平成21	札幌ウポポ保存会	13	古式舞踊上演
16	平成22	静内民族文化保存会	15	アイヌ文化体験交流会及び古式舞踊上演
17	平成23	チーム ニカオプ	11	アイヌ文化体験交流会及び古式舞踊上演
18	平成24	アンコラチ メノコ ウタラ	12	アイヌ文化体験交流会及び古式舞踊上演
19	平成25	様似民族文化保存会	14	アイヌ文化体験交流会及び古式舞踊上演
20	平成26	白糠アイヌ文化保存会	12	アイヌ文化体験交流会及び古式舞踊上演

表4 第20回武四郎まつり実行委員会の動き

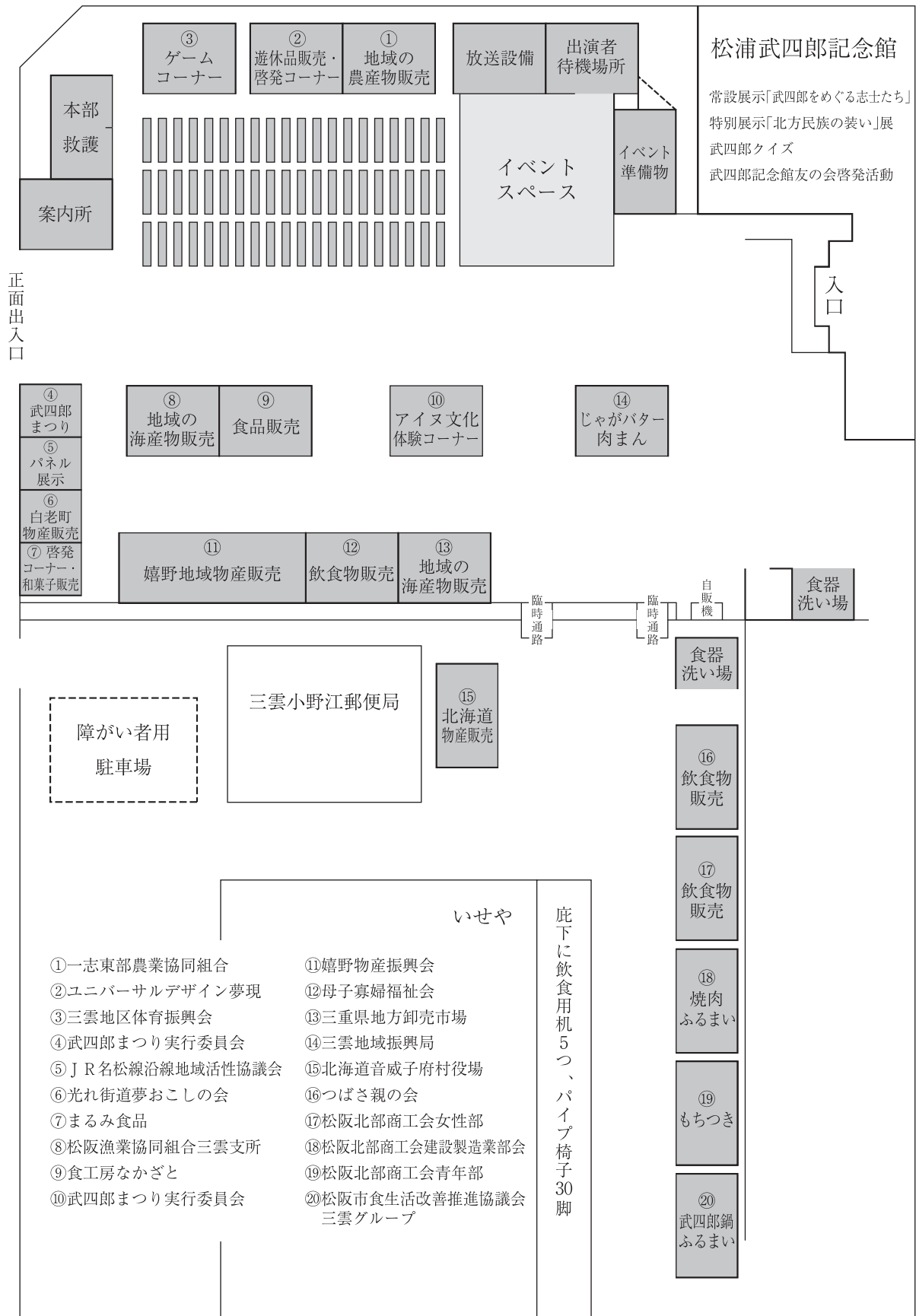
月	日	内 容
6	9	第1回実行委員会
	24	地域づくり支援事業補助金申請／事業補助金450万円を申請
	30	地域づくり支援事業補助金交付決定
7	6	松浦武四郎記念館開館20年記念式典 参加者 450名
	8	第2回実行委員会
	23	三重県・北海道知事あてに案内文書送付
8	2	大台ヶ原登山 参加者 37名
9	4	第3回実行委員会
10	9	第4回実行委員会
	21	出前イベント「たけちゃんまつり」報道提供
	22	「たけちゃんまつり」のチラシ配布：公民館、振興局、ハートフルみくも他
	28	出演依頼・各関係団体代表者宛に出展意向確認
11	4	局だより11月号「イベントボランティア募集」／「たけちゃんまつり」の記事掲載
	11	第5回実行委員会
	20	「たけちゃんまつり」保健所長宛に臨時業務開始届け
	25	ポスター(B2・500枚)・チラシ(A4・4000枚)印刷業務見積依頼
	30	出前イベント「たけちゃんまつり」米ノ庄小学校 参加者 144名(スタッフ67名)
12	2	ポスター・チラシ印刷業務発注
	3	広報まつさか掲載依頼
	5	「たけちゃんまつり」お礼状送付
	15	第6回実行委員会
		アイヌ文化体験交流会開催に伴うハートフルみくも利用許可申請
	16	三雲中学校生徒に着ぐるみスタッフ募集
	18	「たけちゃん」ハートバス・臨時無料シャトルバス借用見積依頼
	24	ポスター完成
	25	振興局だより1月号「交流会開催」記事掲載
	26	職員派遣依頼(司会)／各施設長宛にポスター掲示依頼
1	5	うれし伝1月号「交流会」記事掲載／まつりについて各報道機関に報道提供
	6	シャトル・ハートバス運行・手話通訳派遣依頼／各小学校長あて交流会のチラシ配布
	8	武四郎まつり記念グッズ・ノートとメモ帳発注
	13	第7回実行委員会
	14	チラシ完成
	15	のぼり設置(旧伊勢街道、以後順次小野江町内、小学校、公民館、記念館・駅周辺等)

月	日	内 容
1	16	振興局職員に対して職員動員協力依頼
	19	市長・教育長・来賓等案内通知／チラシ配布依頼／近鉄各駅にポスター広告掲示依頼
	21	近鉄各駅にポスター広告掲示依頼／国立民族学博物館へ講師派遣依頼
	27	イベント警備員25名委託業務見積依頼
	28	イベント備品借上げ等委託業務見積依頼
	29	松阪警察署長宛に警備警察官派遣申請／ふあみんぐ2月号「まつり開催」記事掲載
	30	実行委員長及び副委員長表敬訪問(松阪市長への事業説明)
	31	中勢バイパス開通記念式典でまつりのPR
2	1	広報まつさか2月号「交流会とまつりの開催」記事掲載
	3	第21回武四郎まつり実行委員の公募委員募集記事掲載依頼
		第8回実行委員会
	5	国立民族学博物館で展示資料の借用
	6	イベント備品借上げ等委託業務見積
	9	イベント警備打合せ／出展代表者会議／バス運行打合せ
	10	会場設営打合せ
	12	バス運行／受付・案内係、接待・救護係・復興支援グッズ販売係打合せ／ 小野江小学校施設借用依頼
		国立民族学博物館所蔵資料による「北方民族の装い」展の開幕
	13	リサイクル指導係・イベント進行係・イベント係打合せ／仮設電源工事／ ゴミ処理委託業者依頼／LPガス発注
	16	駐車場係打合せ
	17	露店等の開設届出書／振興局バス配車申込
	18	弁当発注／着ぐるみ係打合せ／事務局打合せ／新聞広告掲載
	19	傷害保険及び賠償責任保険加入申込
	20	保健所長宛に臨時営業許可申請／まつり前々日太鼓、車椅子等搬入、テント設営等
	21	アイヌ文化体験交流会 参加者 70名
		まつり前日準備物搬入・設営／水道設備
	22	第20回武四郎まつり 来場者 延3,500名
		まつり片付け(～23日)
	26	駐車場借用施設にお礼
	27	各機関・出演者・ボランティア・来賓等にお礼状送付
3	12	第9回実行委員会
	22	「北方民族の装い」展の閉幕
	26	国立民族学博物館で展示資料の返却
		地域づくり支援事業補助金実績報告

表5 第20回武四郎まつり運営スタッフ・出演者一覧

役 割	人数	スタッフ				内 容
		委員会	担当者	振興局	ボランティアほか	
総務係	3	1+(2)				総務(来賓等の接待)
総合管理(出展・出演)係	4	2+(2)				出展・出演関係の総合管理
イベント進行係	12	2		10		イベント進行(出演者誘導、必要品の搬入及び配置、鍋整理券配布)
接待(記念館)係	2			2		来賓対応、出演者受付・謝礼支払い
館内案内・イベント、マスコミ対応等	9	3			1+読む会【5】	記念館内案内・イベント、マスコミ対応等
啓発活動・書籍販売等	3				友の会【3】	武四郎関連書籍販売等の啓発活動
着ぐるみ係	15			3	着ぐるみボランティア【12】	「たけちゃん」「ちゃちゃも」「ウレッピー」の着ぐるみ着用と誘導、じゃんけんによるPR
生活環境係	2			2		ごみの出しかた啓発(配布後それぞれ案内・受付係、リサイクル指導係へ合流)
駐車場係	38		警備会社【25】	13		車両誘導
受付・案内係(武四郎クイズを含む)	8			8		受付・案内、武四郎クイズ・スタンプラリー解答用紙・賞品配布、プログラム等配布
接待・救護係	6			6		来賓・出演者受付、湯茶、救護
復興支援グッズ販売係	5			5		陸前高田市復興支援グッズの販売等
リサイクル指導係(食器洗い場2ヶ所)	9	1	5	3		ゴミの分別や洗い場等での指導
写真・広報係	2			2		写真・広報
たけちゃんハートバス(運転手)	1		三重交通【1】			たけちゃんハートバスの運転
無料シャトルバス(運転手)	2		三重交通【1】	1		マイクロバスの運転
警備・パトロール	3				補導委員【3】	警備・パトロール
青少年センター	5				センター【5】	警備・パトロール
警察官	3		松阪警察署【3】			車両誘導、交通整理等
司会者	1			1		司会進行
アイヌ文化体験コーナー	10		文化保存会【2】	6	友の会【2】	アイヌ文化体験コーナー
松阪北部商工会青年部	10		10			もちつき
松阪北部商工会女性部	12		12			うどん、フランクフルト等の販売
松阪北部商工会建設製造業部会	10		7	3		焼肉ふるまい
福祉団体(つばさ親の会)	15	1	14			焼きそば、コロッケ、お茶等の販売
福祉団体(母子寡婦福祉会)	10		10			フランクフルト、みたらし、お茶等の販売
一志東部農業協同組合	8	1	7			地域の農産物の販売、もちまき
松阪漁業協同組合 三雲支所	8		8			地域の海産物の販売
嬉野物産振興会	9		9			嬉野地域の物産の販売
三重県地方卸売市場	6		6			地域の物産等の販売
ユニバーサルデザイン夢現	15		15			遊休品の販売、啓発活動等
三雲地区体育振興会	10	1	7	2		ゲーム(スカットボール)
食工房なかざと	10		10			おやき、春巻き、味ご飯、ケーキ等販売
啓発コーナー(まるみ食品)	3		3			和菓子、からあげ、ポテト等の販売
光れ街道夢おこしの会	1		1			北海道(白老町)の地域物産等の販売
小野江まちづくり協議会	20	1	19			武四郎誕生地前お休み処・写真撮影会
誕生地・真覚寺案内	5				友の会【5】	誕生地・真覚寺案内、獅子舞の準備等
松阪市食生活改善推進協議会三雲グループ	25		25			武四郎鍋
JR名松線沿線地域活性化協議会	1		1			JR名松線に関する展示
北海道音威子府村役場	7		5		友の会【2】	音威子府そば・羊かん等の販売
三雲地域振興局(じゃがバター)	12	1		11		じゃがバター製造・販売、肉まん等販売
合 計	340	18	206	78	38	
出演団体 208 小野江コミュニティセンター詩吟の会(6)／みくもチルドレン(20)／三雲中学校踊り隊(33)／三雲中学校吹奏楽部(28)／松阪しょうがい音頭と踊り保存会(40)／三雲しょうがい保存会(30)／米ノ庄子どもしょうがい太鼓講座(9)／武四郎守り隊(24)／白糠アイヌ文化保存会(12)／伊勢大神楽保存会竹上社中(6)						
						総合計548名

図1 第20回武四郎まつり当日の配置図



第21回武四郎まつり実行委員会

委員長 中村文恵(三雲文化協会)

副委員長 山中和儀(松阪市自治会連合会三雲自治会長会)／村田光子(三雲アイリス)

委員 木村文紀(武四郎守り隊：松阪市立小野江小学校)／竹内和久(三雲小野江郵便局)／

中村 淳(三雲地区体育振興会)／久保宏明(松阪北部商工会)／

山田直希(一志東部農業協同組合)／石神一世(松阪市社会福祉協議会三雲支所)／

松本賀美(松阪市立三雲中学校)／中島昭光(松浦武四郎記念館友の会)／

伊藤 俊(おのえ住民協議会)／中野 恭(松浦武四郎記念館館長)／山本 命(同館主任学芸員)

顧問 宇野文男

事務局 鈴木 修(三雲地域振興局局長)／竹田正明(同局次長兼地域整備課長)

伊藤広美(同局嬉野・三雲地域振興局連携強化担当参事兼地域振興課長)

河井和義・杉谷松次(同局地域振興課)

武四郎まつり 20年の歩み

魅力あふれるふるさとづくりをめざして

編集責任 宇野文男

企画・編集 武四郎まつり実行委員会

〒515-2112 三重県松阪市曾原町872 松阪市三雲地域振興局内

武四郎まつり実行委員会事務局 電話0598-56-7905

編集協力 松浦武四郎記念館

発行日 平成27年9月30日

印刷・製本 東海印刷株式会社

〒515-0813 三重県松阪市大塚町57-1 電話0598-51-6137



平成27年9月
武四郎まつり実行委員会